

2013 プロ-フ

APPROACH

KOBE No.42

2013.1.31

■特別企画

『自然エネルギーの可能性を考える』



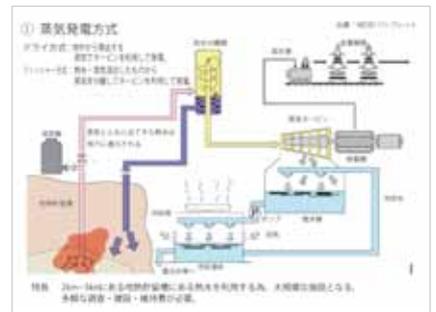
JSTマレーシア



階段の家



シティタワー神戸三宮からの眺望



h邸



神戸市耐震キャラクター
オキールファミリー



(一社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部

APPROACH No.42

(一社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部

APPROACH No.42

巻頭挨拶	新年の挨拶	神戸支部長	田中 邦男	1
	新年のご挨拶	神戸市長	矢田 立郎	2
	新年を迎えて	神戸市都市計画総局長	鳥居 聡	3
	新年のご挨拶	神戸市都市計画総局住宅部長	遠藤 卓男	4
	新年のご挨拶	都市計画総局建築指導部建築安全担当課長	根岸 芳之	5
	新年のご挨拶	神戸すまいまちづくり公社住環境再生部長	井垣 昭人	6
	新年のご挨拶	副支部長	川崎 史	7
	神戸市すまいの安心支援センターに配属されて			
		神戸市すまいの安心支援センター前震支援係	畑林 祥美	8
〈特別企画〉				
	再生可能エネルギーの可能性……地熱発電について			9
		丸正建設株式会社一級建築士事務所	有賀 芳子	
	建築座談会 建築への自然エネルギー活用			11
		芦澤 竜一 畑中 久美子 三宅 正浩		
事業報告	定時総会・講習会・研修見学会			20
	シティタワー神戸三宮 現場見学会			23
		研修部	吉田 多雄	
	東日本大震災復旧復興状況の視察研修			24
		前田信行一級建築士事務所	前田 信行	
	第4回建築士事務所キャンペーン報告			31
		灘区地区別協議会幹事	成瀬 秀一	
	神戸市すまいの安心支援センター共催セミナー			33
		共催セミナー担当	成瀬 秀一	
	いきいき下町推進協議会参画事業 こうべまちづくり学校専修講座			37
		運営委員	成瀬 秀一	
	同好会だより			46
	平成24年度 建築士事務所キャンペーンを終えて			47
		建築士事務所キャンペーン実行委員長	川崎 史	
	賛助会だより 『ステンレスの起源』			49
		三和シャッター工業㈱	三原 芳之	
組 織 図				50
新入会員紹介				52
作品紹介				53
会員の広場	一級建築士事務所 アトリEsae			56
		一級建築士事務所 アトリEsae	前田 さえ	
	私の街づくり	大和船舶土地株式会社	鈴木 祐一	58
協賛広告				59
編集後記				60



新年の挨拶

神戸支部長 田中邦男

新年明けましておめでとう御座います。

平素より神戸支部会員並びに賛助会員の皆様、また関係者各位におかれましては、支部活動に多大なご支援ご協力を賜りまして誠に有難うございます。心より厚く御礼申し上げます。

昨年4月の総会ではからずも神戸支部長という大役を仰せつかりはや8ヶ月が経ち、新年を迎えることが出来ましたこと一重に皆様方のご指導ご協力のお陰と深く感謝申し上げます。

昨年10月には「東日本大震災 復旧・復興状況の視察研修」と題して被災地に二泊三日の旅をしました。

兵庫会よりの参加者は空路 伊丹空港より仙台へ向かいましたが、私は何分飛行機が苦手なので新神戸駅より新幹線で仙台へ向かいました。約5時間の1人旅、いささか疲れしました。

テレビ・新聞等で目にはしてはいましたがやはり自分の目で直に見て改めて地震の恐ろしさ・津波の威力の大きさを痛感しました。震災直後の姿は今では写真でしか見ることが出来ませんが、津波が引いていくさまに安堵しながらも我が家の方に目をやると我が家は跡形も無い。建物が有れば精神的にも肉体的にもがんばれるし、将来の希望も持てると思いますが…

被災地は1年7ヶ月が経過し当時より整理されて右を見ても左を見ても綺麗に更地になってはい

ましたが基礎コンクリートは残っており何時になったら復興するのか。一刻も早い復興を願っています。

宮城会との交流会では、宮城会の栗原会長はじめ副会長、専務理事の参加をいただき、また、神戸市より出向中の職員の方にもご出席いただき現況と今後の復興・支援等について意見をお伺いしました。

復興支援と言っても一支部だけでは何が出来るか、やはりこれは本部主導での支援になると考えます。

今回の事業の企画から橋渡し、連絡調整等ご尽力下さいました方々にはこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

今年度、二回目の事務所キャンペーンを昨年9/30(日)に会員による建築相談会・パネル展示、賛助会員による展示・実演、神戸市より耐震補強の啓蒙活動、キャンペーン初となる起震車を活用し来場者に再度地震に対する心構え・対策を再認識してもらう事を計画しておりましたが、台風17号の接近により非常に残念ですが安全、事故防止等を考え中止にしました。各担当者には多大なる時間と労力を費やして頂き誠に有難うございました。

法改正で建築士事務所が士法に明記されましたが、一般市民の方々には周知されていないのが現状です。建築士事務所の必要性をこのキャンペーンや建築相談会を通じて一般市民の方々に周知して頂く様啓蒙していくことが大事であると考えます。

今後、第三回目となるキャンペーンとして11/18(日)に神戸大学オープンハウスにて建築相談会を開催させていただく予定です。

神戸支部では、今後も一般市民向けセミナー、会員向けセミナー、神戸市への応援協力等諸事業を計画していますので多数のご参加をお願い致します。

今後とも皆様のご協力、ご指導をお願いすると共に、皆様方のますますのご発展とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

神戸市長 矢田 立郎

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

平素より神戸市政に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

神戸は、これまで多くの災害や困難に見舞われるたびに、ともに助け合い、復興と発展を果たしてきました。18年前の阪神・淡路大震災を契機に生まれた「絆」によって苦難を乗り越えてきたことは、神戸市民の貴重な財産となっています。この「絆」の輝きを東日本大震災の被災地へ届けるとともに、次の世代においても輝き続けることができるよう、ともに分かち合う絆のまちを実現し、継承していくことが、わたしたちの使命であると考えています。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から1年9ヶ月が経ち、被災地は復旧・復興に懸命に取り組んでおられます。我々は被災地の皆様のニーズに的確に応えるべく、専門職員の派遣を中心に復興に向けた支援を続けるとともに、被災地支援活動などを行うボランティア・NPO団体に対する助成を継続する等、震災を経験した神戸だからできる被災地へ心をつなぐ支援を続けてまいりたいと思います。

一方、震災をきっかけに、エネルギー需給の状況やエネルギー・地球温暖化に関する市民の意識が大きく変化しました。特に人口と建築物が集中する都市における低炭素化は重要な課題であり、

その取り組みの促進が求められております。本市では、昨年4月に「神戸市建築物等における環境配慮の推進に関する条例」を新たに制定するとともに、都市活動によるCO₂排出量の削減とあわせて、市民の暮らしの質の向上、地域経済の活性化、都市やまちの環境価値の向上をはかることにより、施策展開の方向性と実現に向けた先導的な取り組みを示す「神戸スマート都市づくり計画」を昨年7月に全国に先駆けて策定しました。これらの取り組みを通じて、持続可能な環境配慮型都市づくりを目指してまいります。

また近年、高齢社会の進展や核家族化などに伴って適正な維持保全がなされていない老朽危険家屋が増加しており、これらが倒壊したり部材が飛散する恐れがあることで周辺の市民に不安を与えています。このような危険から市民を守るための措置等を行うことができるよう、本市においても条例制定を検討しているところです。

貴支部の皆様には、日頃よりすまいの耐震化をはじめとする本市事業にご尽力いただいております。改めて感謝の意を表しますとともに、安全安心なすまい・まちづくりの推進に引き続きご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。



新年を迎えて

神戸市都市計画総局長 鳥居 聡

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より、神戸市のすまい・まちづくりの各方面においてご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

一昨年に発生しました東日本大震災の被災地の皆様におかれましては、一日も早く復興が成し遂げられますよう、心よりお祈り申し上げますとともに、18年前に阪神・淡路大震災を経験した都市として、これからも引き続き出来る限りの支援を続けてまいります。

さて、神戸市では都市計画マスタープランに基づき、めざす都市空間や、その実現に向けた都市計画の取組みを明らかにし、協働と参画により、神戸の都市づくりを総合的・戦略的に推進しています。

都市計画マスタープランでは「環境との共生」を掲げており、その取組みとして「神戸市スマート都市づくり計画」を策定、また「神戸市建築物等における環境配慮の推進に関する条例」を施行し、都市活動によるCO₂排出量の削減とあわせて、市民の暮らしの質の向上、地域経済の活性化、都市やまちの環境価値の向上をはかることによる、持続可能な環境配慮型都市づくりをめざしています。

また、全国に先駆けて策定された都市景観条例や都市景観形成基本計画に基づき、神戸らしい景観をまもり、そだて、つくる取り組みを進めています。景観への意識の高まりや他都市での先進的な取り組みが進むなど、これまで以上に神戸らしい景観を継承し、創造していく取り組みが求められる中、「神戸らしい景観づくりの指針」を策定し、より実効性のある総合的な景観街づくりに取り組むことで、「デザイン都市・神戸」の推進を図ることとしています。加えて、神戸の玄関口である三ノ宮駅周辺や都心・ウォーターフロントエリアといった都心域においては、神戸の魅力向上のため、総合的な取り組みを行っているところです。

皆様と関係の深い分野では、今年度、特に住宅をはじめとした建築物の耐震化や、空き家・老朽家屋対策、密集市街地の再生など、安心・安全のすまい・まちづくりにつなげる取り組みに重点をおいて進めます。このように、時代の要請に即した様々な方面において、今年も皆様とともに神戸のすまい・まちづくりに邁進してまいりたいと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

神戸市都市計画総局住宅部長 遠藤卓男

新年明けましておめでとうございます。

兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様には、平素より神戸市住宅行政の推進について、何かと御支援、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

神戸市では、平成23年(2011年)に、「神戸市住生活基本計画」を策定し、これに沿って住宅行政を展開しています。

基本計画では、「住まいは市民の安心で豊かな生活にとって不可欠な基盤である」との基本的認識のもとに、施策の方向性として、「安全な住まいを実現する」「居住の安定を確保する」「環境にやさしい住まいを実現する」「ニーズにあった住まいを選べる仕組みを創り出す」「人と人とのつながりを大切にしたい住まいづくりを支援する」という5つの柱を掲げ、具体的な施策の実行に取り組んでいます。

いくつか例を挙げますと、まず、安全な住まいを実現するという点で、住まいの適法性の確保の観点から、新築住宅の完了検査率はほぼ100%を達成しています。それから、住まいの耐震化を推進することと合わせて、家族の命を守るため、家具固定にも力を入れています。また、居住の安定を確保するという点で、「神戸市高齢者居住安定確保計画」を昨年3月に策定しました。さらに、環境にやさしい住まいの実現の観点からは、

「CASBEE神戸」及び「すまいの環境性能表示」などの普及に取り組んでいます。

ニーズにあった住まいを選べる仕組みの観点からは、住まいの総合相談窓口である「すまいるネット(神戸市すまいの安心支援センター)」での相談業務や情報提供に努めています。また、人と人とのつながりを大切にしたい住まいづくりを支援するという点では、マンション管理支援のアドバイザー派遣などにも取り組んでいます。

こうした取組みを推進するには、市民、地域団体、事業者、専門家などの多様な主体が、それぞれの役割を發揮し、連携していくことが重要です。

その中でも、住まい・建築の専門家としての建築士の役割はますます重要になっています。兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様が、これまでも、完了検査率の向上、住まいの耐震化の促進、さらには、すまいるネットの運営支援をはじめ、安心で豊かな住生活を実現する重要な部分で活躍してこられたことに深く敬意を表します。

本年も、住宅行政の推進に、引き続き御協力くださるようお願い申し上げますとともに、皆様方の益々の御多幸と御発展を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

都市計画総局建築指導部建築安全担当課長 根岸 芳之

新年あけましておめでとうございます。

平素より神戸市の建築行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

神戸市では、建築物安全安心実施計画を策定し、安全で安心なすまい・まちづくりのために総合的な取り組みを進めております。そのなかで、完了検査率につきましては、平成10年度に44%だったものが、現在では99%を超えており、定期報告の報告率につきましても、平成10～12年度では70%弱だったものが、現在では約90%にまで向上してきております。これもひとえに兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様のご尽力とご協力の賜物と考えております。

一方で昨年を振り返りますと、5月に福山市でホテル火災、10月に金沢市でエレベーター事故が発生するとともに、非設計士による建築士詐称といった事件も発生しました。こういった事件・事故が発生しますと、緊急の調査を行うとともに、取り扱いの改正を含め必要な対応に迫られ、皆様にも少なからず影響が出てきたことと存じます。

また、昨今の社会経済情勢を踏まえ、建築基準法施行令に関しまして、一定の安全性が確保されている既存建築物の大規模な増改築を促進させるための改正や、備蓄倉庫等の一定の床面積を容積率の算定基礎となる延べ面積に算入しないといっ

た改正がなされるとともに、「都市の低炭素化の促進に関する法律」の施行、「神戸市建築物等における環境配慮の推進に関する条例」の策定といった新たな動きも出てきているところです。

さらに、高齢社会の進展や核家族化等に伴い、適正な維持保全がなされていない老朽危険家屋の増加が課題となっております。危険な状況から市民を守るため、家屋の維持保全に対する所有者責任を明確化し、老朽危険家屋の所有者に必要な措置を講ずるよう指導等を行うとともに、安全性確保に必要な調査や応急的な措置等を行うことができるよう「神戸市建築物の安全性の確保等に関する条例」の改正にむけ検討を行っているところです。

今後、東日本大震災の被害を踏まえた関係規定の見直しとして、大規模空間を持つ建築物の天井脱落対策や、超高層建築物等における長周期地震動への対応等について、具体的な動きが出てくるものと考えられます。

これらも含め、本年もいろいろとお世話にならなければならない機会が数多くあるものと存じます。変わらぬご理解とご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご発展とご健勝を心より祈念いたします。

最後に、「住み続けたいなるまち、訪れたいなるまち、そして、継続的に発展するまち」を目指して、神戸の今と未来を皆様とともにデザインしてまいりたいと考えております。



新年のご挨拶

神戸すまいまちづくり公社 住環境再生部長 井垣 昭人

新年明けましておめでとうございます。

平素より当公社の事業に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年1月1日、皆様に長年親しんで頂いてきました神戸市都市整備公社（整公）は、新たに「一般財団法人神戸すまいまちづくり公社」として出発いたしました。昨年、神戸市住宅供給公社（住公）が、民事再生手続きにより清算されたことに伴い、住公事業の一部を継承するとともに、整公、住公の両公社の技術・ノウハウなどを統合し、新たな展開を図っていきたく考えています。

この流れのなかで、昨年4月より、当社内に「住環境再生部」が組織され、現在、主に二つの事業に鋭意取り組んでいるところです。

ひとつは、「賃貸住宅事業」であります。住公が行っておりました一般賃貸住宅、直営特優賃、借上特優賃など135団地・約4,500戸の賃貸住宅の管理運営事業を継承し、発展させていくことが使命となっています。これらの賃貸住宅にご入居のお客様へのサービスを充実していくとともに、更に多くの市民の方々にご入居頂けるよう、各種キャンペーンの実施や施設の改善などに積極的に取り組んでまいります。

もうひとつは、住公の「すまい安心支援事業」を継承するとともに、整公の「まちづくり支援事

業」を総合化し、神戸市民のすまいづくりからまちづくりまでをワンストップかつトータルに支援を行うとともに、その機能をより一層充実していきたいと考えています。なかでも、以下の事業を再生3事業として位置づけ、神戸市と連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

- ①「密集市街地の再整備」に関して、耐震化促進・細街路整備・共同建替や小規模区画整理事業など、地域のすまいまちづくりのコーディネート等による支援
- ②「老朽化した大規模団地の再生」に関して、一定地域における空き家の活用や住み替え斡旋など住宅ストックの活用などの支援
- ③「高経年マンション対策」に関して、管理機能の支援や建替えなどの支援

これらを通じ、住宅相談から都市整備まで一貫した支援を行う「神戸すまいまちづくり公社」として、市民サービスの充実に一定の役割を果たしていきたいと考えています。

とりわけ、兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様方には、「すまい安心支援事業」の中核である「すまいるネット（神戸市すまいの安心支援センター）」の運営に関して多大なご支援を頂いております。ここに深く感謝いたします。

本年も引き続き、変わらぬご理解とご協力をお願いするとともに、皆様の益々のご発展とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

副支部長 川崎 史

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

神戸支部会員並びに賛助会員の皆様には、平素より支部活動にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

さて先の総会にて副支部長を拝命し身の引き締まる思いです。支部事業を、歴代の役員経験の皆様からのご指導を仰ぎ副支部長を務めさせていただいておりますことに、心より感謝いたします。

今年は東北への研修旅行が企画されました。(私は都合により参加できず申し訳ありませんでした)あの東日本大震災から1年8か月が経過しました。復興というにはまだまだ遠いですが、沿岸部を浸した水は乾き、建物の土台とその間を走る幾筋もの道路だけが街の輪郭をつくりはじめ、人々が生活していた地は今では雑草の緑が覆っています。

私は、建築士事務所キャンペーンの実行委員長として活動させていただいていますが、このように阪神淡路大震災・東日本大震災などの巨大地震を目の当たりに経験した現在でも残念ながら、市民の地震に対する意識が低いのが現状のように思われます。人間はイメージのできない状況に対しての心がけや準備などは、絶対にできないそう

です。考えてみるに交通事故のように悲惨さがイメージできるものは保険や事前対策もできています。また耐震における技術と制度ですが、技術については専門家の育成はもとより、われわれ建築士事務所協会が協力できる場であり、制度につきましても神戸市は、震災の教訓を生かし耐震改修計画策定費用・耐震改修工事費用補助制度があり、申請や補助金制度がスムーズに行えるよう常に改善をしていただいております。市民にとってはより利用しやすくなっています。フェニックス共済などの共助制度も備え、設備の面において、組織や制度は充実しています。あとはイメージです。家具固定から耐震補強工事までいかに耐震補強が重要であるかを市民に広めると同時に、建築設計事務所の役割をPRし理解していただき社会の評価を高めるため、敷居の高い設計事務所ではなく、話しやすい身近な存在、相談窓口であること、地道なキャンペーンなど日々の活動が重要で、「継続は力なり」続けていく努力が最重要と考えます。「天災は忘れたころにやってくる」私たち世代にはよく知られた言葉ですが、この言葉を知らないのが最近の若い世代です。キャンペーンを通して地震・災害の怖さや経験を伝えるたいせつな場であることも価値があると思います。

これからも会員皆様と協力しキャンペーン活動を継続し、耐震化が一步でも進むことを願っております。

最後になりましたが、ご指導・ご鞭撻・更なるお力添えをお願いいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

神戸市すまいの安心支援センターに配属されて

神戸市すまいの安心支援センター 耐震支援係 畑 林 祥 美

新年あけましておめでとうございます。

今回「神戸市すまいの安心支援センターに配属されて」というテーマで執筆依頼をいただき、「苦労したところ」や「嬉しかったこと」などなど何かあったかなあ。と考えていたところ何だか色々と思い出してしまい…。改めて配属されてからのこの4年間はあっという間だったなという事と、同時にたくさんの事を経験させていただいたなということを感じました。



当然4年間という期間の中で、特に（一社）兵庫県建築士事務所協会神戸支部「神戸市すまいの耐震診断員」の皆さまには、異動当初から耐震診断に関する初歩的なことから一般的な判断基準まで教えていただく機会も多く、過去の経緯などは書類に残っていてもニュアンスが掴めず悩んだときなどにいつも嫌な顔をせず説明していただきました。たぶん耐震診断員の皆さまにはご迷惑をお掛けすることが多かったかと思いますが、とても有難いなと思ったのを覚えています。

職場に慣れてきてからは耐震支援係も係長以下4名体制から現在は9名体制（増減していますが）へと変化、私自身は耐震診断員さんとはイベントや講習会等で接する機会が多く…その中でも（一社）兵庫県建築士事務所協会神戸支部50周年の年は年度を通じて一番印象に残る年だったように思います。

ちょうどその年に高倉台の木造戸建住宅をお借りすることができ、「実際に耐震診断を行う際にどういうところを見て判断するのか？」「この場合は結果にどのように反映するのか？」など耐震



診断員さん同士の意見交換の場として勉強会を行ったり、耐震診断体験ツアーを開催して周辺地域の方に実際に耐震診断とは何をするのかを知っていただくイベントを支部の皆さまに開催していただきました。また、私たちすまいるネットのスタッフも普段耐震診断員の皆さまがどういうお話をしているのかを知る良いきっかけとなりました。耐震診断啓発用DVD制作の現場として利用する際には撮影の現場に立ち合わせていただくなど普段できない事を体験することができました。

特にこの年は、阪神・淡路大震災から15年という年でもあったので他にもイベントが多く自分の中で耐震ということに対して見直すきっかけのような1年でもありました。



その後、東日本大震災により改めてすまいの耐震化の必要性を強く感じており、更なる普及活動に力を入れて取り組まなければならないと思っています。

市民の皆さまに安心してすまいの耐震化を進めていただくため、（一社）兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆さまにはより一層ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

特別企画

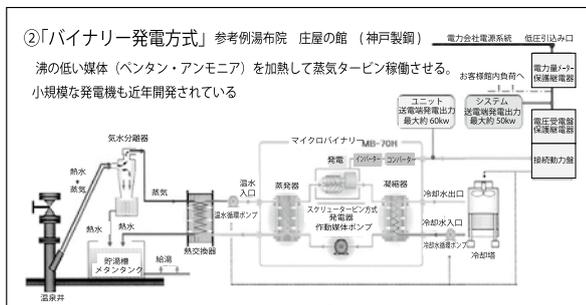
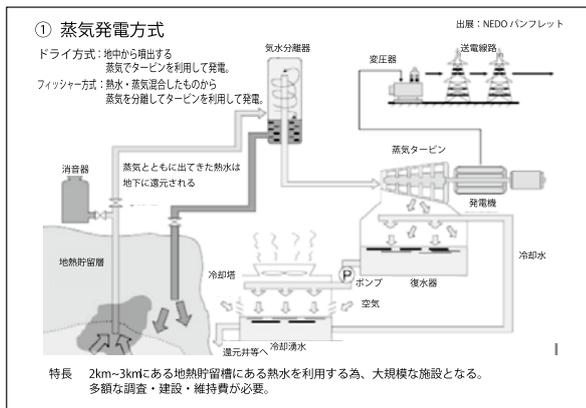
再生可能エネルギーの可能性……地熱発電について

丸正建設株式会社一級建築士事務所 有賀芳子

温泉地でコンパクトな地熱発電機の設置が検討されているという5月にテレビ報道を見て、興味を持ち、温泉地で取材をしたいと思いました。実際は試験調査等に時間がかかっているようで、発電機器メーカー担当者も少数で多忙な為、取材はできなかったのですが、電力問題についても考える良い機会となりました。ご紹介させていただきます。

1. 地熱発電の仕組み

地球の地底にはマグマがあり、高熱で活動しています。その熱を利用して 火力発電や水力発電と同様にタービンを回して発電します。



2. 地熱発電の現状 (国内)

1966年から13か所の事業用地熱発電所が建設・稼働しています。(資料2参照)

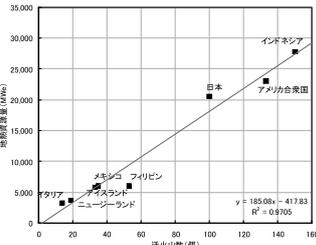


近年の主に以下の理由で採算が合わず普及が停滞していました。

- ①研究としては既に国として取り組んで50年近く経過しており、研究・地盤調査・建設補助金が出ない。(原子力・太陽光・風力に費用が回っている。)
- ②地盤の調査は時間も費用も何億円とかかるが、結果は地域・地点でばらつきが多く、調査費用と建設費と発電量の関係が安定しておらず、15年間平均コスト14.1円と他の電源と比較して割高。スケールメリットがでない。
- ③国立公園内にあるので、許可をとるのが大変で環境アセス開始から運転開始までに約10年かかる。
- ④既存の温泉組合と、温泉の枯渇が無いことの調整が困難。

(海外との比較) 資料：(独)産業技術総合研究所 地熱発電の開発可能性 (H20年) から

国名	活火山数 (個)	地熱資源量 (MWe)
インドネシア	150	27,791
アメリカ合衆国	133	23,000
日本	100	20,540
フィリピン	53	6,000
メキシコ	35	6,000
アイスランド	33	5,800
ニュージーランド	19	3,650
イタリア	14	3,267

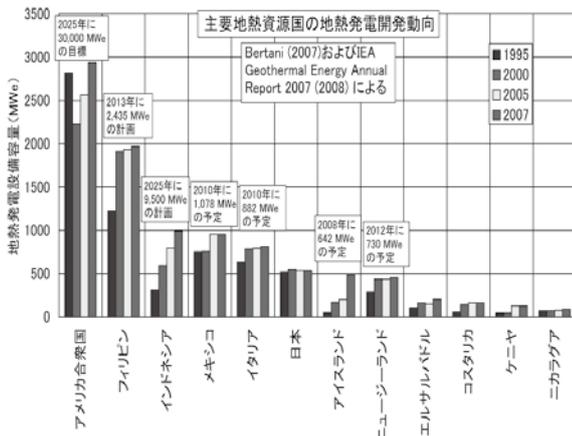


活火山の数と地熱資源量は正の相関がある。インドネシア、アメリカ合衆国、日本が三大地熱資源国。

インドネシアなどの開発については、日本メーカーが選定企業の主流となっている。

3. 平成24年度 買取価格(税抜)新規設置の場合

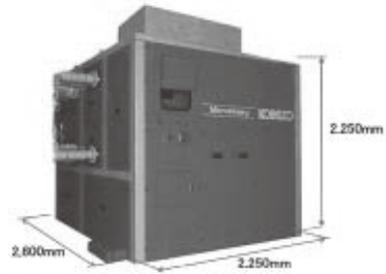
※既存設備は個別に決定



	調 達 価 格			調達期間
	10kw以上	10kw未満	10kw未満 ダブル発電	
太陽光	42円	42円 (※内税)	34円	10年
水力	1,000kw以上 30,000kw未満 25.2円	200kw以上 1,000kw未満 30.45円	200kw未満 35.7円	20年
バイオマス	メタン発酵 ガス化 40.95円	未利用木材 熱焼 33.6円 一般木材 熱焼 25.2円	廃棄物 (木質以外) 熱焼 17.85円 リサイクル 木材熱焼 13.65円	20年
風力	20kw以上 23.1円	20kw未満	57.75円	20年
地熱	15,000kw以上	15,000kw未満	42円 (※内税)	15年

工業機械からの排熱利用は、工業機械に利用されるエネルギーが再生エネルギーではないので買取対象にはなっていません。

今、注目される地熱発電



小型バイナリー発電機(2012年3月プレス発表)

神戸製鋼所 70kw「マイクロバイナリー」

サイズ：1辺2m余

本体価格：2500万円

発電コスト：10円/kwh以下

設置予定：湯布院 ゆふいん庄屋の館

「ゆふいん庄屋の館」に電話で問い合わせると、全然進んでいないとのこと今回は取材できませんでした。

新聞などによると、電気保安事業法で専任の電気主任技術者が必要で、設置場所にも細かい条件があるの等に時間がかかる原因のようです。

4. 終わりに

日本の地熱発電の研究者・技術者は長い間地道に研究をされていることに敬意を表したいと思います。

近い将来、高温な温泉地域でなくてもバイナリー発電の開発が進めば、身近なところでも地熱発電は利用されると思います。

今回の記事作成の中で、エネルギーを選択する事と省エネを考える事は、生き方・暮らし方の選択だと考えるようになりました。設計者としてできる事を提案・選択していきたいと思いました。

※参考文献 真山仁 作「マグマ」

※日本地熱開発企業協議会「再生可能エネルギーの全量買取についての意見」に関するヒヤリング資料

※株式会社神戸製鋼所 マイクロバイナリーに関するプレス記事

※(独)産業技術総合研究所 地熱発電の開発可能性(H20年)

※地熱発電に関する研究会 中間報告 平成21年6月

建築座談会：芦澤 竜一 × 畑中 久美子 × 三宅 正浩

座談会テーマ：建築への自然エネルギー活用

収録日時：2012年10月25日 収録場所：芦澤竜一建築設計事務所

東日本大震災の影響もあって、最近では自然エネルギーの活用がより注目されている。建築業界でも自然エネルギーを利用した設備や建築物が増えてきたように思われるが、数年前より建築設計に自然エネルギーを活用しておられる若手建築家の3名に「建築への自然エネルギー活用」をテーマに座談会形式でお話をうかがった。

三宅：最近、自然エネルギーを利用した建築が増えつつあるように感じますが、芦澤さんが自然を取り込むようになったきっかけを教えてください。

芦澤：僕らが今まで学んできている建築というもの、コンクリートだったり鉄だったり、近代建築から培われてきた、いわゆるコントロールし易い材料が主だったと思います。そしてそういうものがデザインに関わってくるのですが、デザインというものを色々と考えていった時に、デザインの根拠というのはすごく希薄だなと思うようになりました。独立したのが2000年だったんですが、それから都市の住まい方やライフスタイル、家族の問題や集合住宅など、それなりのテーマでやってきたのです。その頃はそこまで自然を意識していなくて、どちらかと言うとプロポーションなどを重視していました。でもデザインとか意匠の根拠としてはちょっと希薄だと思い始め、それよりも建築そのものが本来持っているもっと重要な要素というのがあるんだろうと思い直してきて、もともとの日本建築をみても、自然環境とちゃんと共生しながら、自然の力を利用し、人間の生活を成り立たせるように建築が機能している。2005～6年ぐらいに、一回そのような原点に戻って考えていくべきだろうと、割と強く思いました。あと一方で、自分の原体験的な話を

させてもらおうと、僕は横浜の新興住宅街で育ったのですが…

三宅：そうですか。意外です！

芦澤：そうなんです(笑)。横浜の最初にいたところはガチャガチャしたところだったんですが、小学校3年生ぐらいに横浜の新興住宅地に引っ越して、裏山の自然がどんどん壊されてペラペラな、いわゆる建売住宅がどんどん建っていくことに、すごく違和感を感じました。自然を破壊する建築に対して、もうちょっとバランス良くできるんじゃないかと子どもながらに思っていました。

三宅：2005～6年ぐらいからという話でしたが、あのSDレビュー(以下SD)の“GROUNDING PROJECT-HOUSE01”(写真①)辺りが転機だったんですか？



芦澤：そうですね、あれは2006年です。舞子で“SETRE CHAPEL”を作ったのが2005年だったんですが、光をテーマにした作品で抽象的な空間を造ったんです。でも何かちょっとした違和感が残りました。モダニズム以降の建築界のテーマとして光というものがある、でも自然の中でももっと違う要素があるのではと色々考え始め、SDの住宅は強烈にその方向性でいきました。まあ練習試合だと思って（笑）

一同：笑

芦澤：それまでも独立してから、モダニズム以降の建築とはちょっと違うスタンスをとりたいて思って、インテリアや住宅の中でも日本が持っている伝統的な建築の技術や工法を現代で活かせないかと考えていて、可動間仕切などを色んなプロジェクトで試してきました。

三宅：屋上緑化をしている住宅“Sg”（写真②）ですが、SDの作品に比べると実作まで落とし込んだ感じがあって、方向性としては少し違った印象を受けました。今取り組まれている琵琶湖の風を積極的に利用している滋賀のホテル“SETRE MARINA”（写真③）や、樹木のような柱を採用しているマレーシアの工場“JSTマ



© 芦澤竜一建築設計事務所



レーシア”（写真④）のプロジェクトは、どちらかと言うとSDの作品の延長にあるのかなという印象です。



芦澤：基本的には同じ方向を向いていたつもりでしたが、やっぱり現実に落とし込むことがとか、ブロックを使っていく手法自体が、既視感がある手法ですから、確かにそういう点では未だに反省があるんですが（笑）

一同：笑

芦澤：反省もあるんですが、あの時はこうブロック状に分けてボリュームを分棟にしていくことを考えていました。自然をどうのこうのということではありませんでした。

三宅：芦澤さんのSDの作品は、それ自体が植物のようなところもあるのですが、今取り組んでいる滋賀のホテルだと、どちらかと言えば自然を取り込むというか、自然を使うような…

畑中：建物に自然を引き込むような…

三宅：その辺りは、考え方として変わってきているというより、進化しているのですか？

芦澤：そうですね… SDの時はまさにそうだったんですけど、植物のように建築を作る際に、その植物が持っている生体的な構造とか、樹木の根幹のように設備を考えたりだとか。そのような、ある種の模倣をしながら建築を作る手法は今でも捨てているわけではなく、滋賀のホテルでもそういう案を考えていたんですけど… 現実に落とし込んでいく際に、もう少し違う解釈をしていこうと思いました。建築そのものが

自然を模倣するというよりも、もちろんその考え方もあるんですが、ランドスケープも含めた全体の中で、自然環境を再生しながら発展できるかを考えたときの、建築の役割とは何かということを考えてたんですよね。これがその模型ですけど、基本的に建築はRCで作って屋根を屋上緑化して、それで断熱効果をあげようと考えたり、畑中さんと共同して版築の壁を滋賀の地場の土を使って、客室の界壁に使えないとか。そういう意味でも、自然を素材として取り込むとか、伝統的な日本の技術を見直して現代の建築に取り入れられないとか、まあ色々考えてきています。ちょっと話を続けると、前のチャペルだと光がテーマでしたが、滋賀の場合は風をいかに取り込むかを一つのテーマにしている、チャペル機能を持ったミュージックホールでは、風を通して、風によって空間の中にある弦の音を鳴らそうとしています。

三宅：自然を形態としてデザインに取り込むやり方や、自然の環境自体を取り込むやり方だったり、いろんな人がいろんなやり方を取捨選択しています。この滋賀のホテルに関しては、自然環境を取り込んでエネルギーとして使う方法ですね。

芦澤：自然をいかに利用するか… そうですね、過去に日本の建築でもずっとやられていたことだと思います。

三宅：考え方は、震災後に変りましたか？

芦澤：割と震災前から考えていまして… 元々僕の解釈はヒッピー思考なので(笑)

一同：笑

芦澤：僕はテント一つあれば生きていけると信じている人間なんで(笑) ファイナルホームじゃないですけど、究極的にはテントがあれば生きていけるんじゃないかと思っているんですけど、震災以降はよりそれを考えるようになりました。施主側の意識も変わってきていて、以前は電気を暗くしようとか、冷房をあまりつ

けないようにしようとか言っても、響いて頂ける方はほんの一握りでした。

畑中：原発が強烈でしたからね。

三宅：確かに震災までは「エコ」って言葉だと、「エコノミー」ってイメージの方が浸透していて、「エコノミー」と「エコロジー」っていう違う方向の話が一括りにされていたように思います。「エコ」(エコノミーの意味が強い)と言えばクライアントが頷き易かったのが、震災以降は「エコ」だけでなく、環境や自然エネルギーを取り込む心地よさについて、より伝わりやすくなったような気がします。

現在工事中の滋賀のホテルのプロジェクトでは畑中さんに版築部分に関して仕事をお願いすることになったと思いますが、その経緯は？

芦澤：前から畑中さんは知っていて、滋賀のホテルでは客室の間仕切壁とかをまず土でやりたいなと思ってですね。版築がいいかなと思ったときに、畑中さんに連絡した様な記憶があるんですが… どうでしたっけ(笑)？

畑中：そんな感じです(笑)

三宅：あの版築の壁自体は自立しているんですね？

畑中：そうです。周りをRCに囲まれながら、一枚の版築の壁を2つの客室が共有する。

三宅：と言う事は、版築の壁とRCの壁が交互にあるということですか？

芦澤：そうですね。

畑中：(模型をさして)茶色いのが版築です。2階と3階に…

芦澤：構造的にも2スパンは飛ばせるってことで、界壁としてどのように使うかを考えたときに、普通でいくとブロックだとか、LGSになるのですけど、版築の壁だと意匠的にも感覚的にも機能して、さらに温熱に関しても蓄熱体になるので、いろんな面白さがあるのでやってみようと思いました。あと、壁が結構薄いんですよ。それが現場でも問題というか、かなりいろいろ

頭を悩ませているんですけど…

三宅：それは想定していたよりも薄くなってしまったってことですか？

芦澤：逆にスペースを有効に使おうと、実際の版築でいくと例えば450mmとか欲しいと思うんですが、加重の問題やスペース問題で、300mmくらいの版築をできないかってことを検証していて…

三宅：300mmぐらいって薄すぎるんですか？

畑中：そうなんです。ちょっと高さがあるので…

芦澤：3m以上あるからね。

畑中：ちょっとスレンダーなプロポーションになっちゃう…

三宅：版築の壁が界壁として利用されることによる効果を少し詳しく教えてくださいか？

畑中：これがあることで、まず土なので湿気を吸ったり吐いたりする機能があり、調湿作用があります。また、テクスチャーとして気持ちを安らげる効果があるんじゃないかっていう…私の解釈なんですけども(笑)

一同：笑

芦澤：結構落ち着きましたけど(笑)

畑中：版築のこのシマシマの美しさっていうのも、癒しと共にあるってことと。あと今回、夏の建築学会でも発表したんですが、この閉め固められた土は熱を蓄える効果があるので、それを上手く通風だとか、閉じて暖房負荷軽減に一役かってくれます。神戸芸術工科大学の小玉祐一郎先生にご指導頂きながらいろいろシュミレーションして検証したんですけども、例えば木の薄っぺらい二重壁の中がグラスウールだとした時と比較すると、土は蓄熱にかなり有効に機能していることがわかったんです。何よりこのプロジェクトでの取り組みの目玉は、私たちの建築が目指すゼロエミッションみたいな、製造から破棄までのエネルギーがなるべく0まで近づけるという目標です。その現場や近くでとれた土を使って、破棄されるときその現場に戻るっ

てというのは、すごくエネルギーが少なくて済む先端の取り組みだと私は思っています。

芦澤：本当は全部土で作れるとよかったんですけどね。

畑中：本当に(笑)

芦澤：日本は構造体としてはダメなんですよ。

三宅：RCの壁が薄く入っていて表層として土が付いているよりは、2スパン毎に版築が入っている方が絶対いいですね。

畑中：ほんと、分厚い土壁のもつ効果って凄くあるんです。

三宅：機能としては調湿と蓄熱と、夏場は… 蓄冷？

畑中：そうなんです。夏場は蓄冷なんです。ホテルの隣にある琵琶湖からのちょっと外気より涼しくなった風を取り込んで、通路に抜けるようになっていきますので、夜間のちょっと気温が下がったときだとか、春と秋の外気温が18度から25度くらいになる期間に外気を取り込むことによって、75%くらい冷暖房負荷(年間)が削減されるってことがわかったんです。

三宅：それは夜の間にも風を通すってということですか？ 客室にも？

畑中：そうですね。客室にも外気導入っていうことです。

芦澤：基本的には客室に入って、客室の前の廊下から外に抜くような、そういう計画をしています。

三宅：それは宿泊者にとっては、夜の18度以下の風が通ることは不快には感じないんですか？

畑中：気持ちがいいと思います。まあ長期滞在者ほどそういうのを好むだろうと。

芦澤：ホテルとしても、冷房を使わない自然の風や、光を感じてもらおうように造っていることをアピールしていこうという話になっていて、運営者側にもだんだんと理解してもらっています。

三宅：岡山県の“犬島・精錬所”は空気を動かすことを展示としてやっていて、運営者に説得しやすいかなと思いますが、ここは宿泊施設として

空気を動かすという経営者側の理解がすごいですね。

芦澤：まあホテルの常識としては、普通全部窓を閉め切って空調に頼るっていうのが常識だと思うんですけど、窓を開けて風を通せば十分涼しいし、経営者側にとってもランニングコストなど、お互いにメリットがある。

三宅：すごいことだと思います。システム的にやっているホテルは、日本にないんじゃないですか？

畑中：周りの環境がすごく豊かだったことが大きいですね。これが街中に建っていたらあまり開けたくない。

芦澤：琵琶湖が本当に最大の冷蔵機能というか冷房機能をもっているの、それを使わない手はない。逆に冬場は厳しい風が吹くんですけど…

三宅：かなり雪が降りますね。冬場に蓄熱するための熱源はどうしているんですか？

畑中：この琵琶湖の向きは西側なのであまり日射は期待できませんので、人体や冷蔵庫などの室内発生熱、あと普通につけている暖房とか、少ない発生熱を蓄えるっていう考えです。

三宅：じゃあ版築の中に何かを通してある訳じゃなくて、部屋の熱を自然に蓄えさせようということなんですね。

芦澤：最初は屋上で太陽熱による給湯システムを組んで、温熱をずっと回してって考えたんですけど、ちょっとお金が足らず…(笑)

三宅：なるほど(笑) コンクリートと比べると土の方が蓄熱量としては大きいのでしょうか？

畑中：実はコンクリートの方が大きいんです。調湿機能がなかったり、コンクリートとガラスに囲まれている冷たさとか、そんなのはありませんが、熱の面だけで言えばコンクリートの方が有利です。でも少し視野を広げると、昔から日本にある素材で、蓄熱というのを考えたときに有効なのはやっぱり土なんです。

三宅：湿度も入れた不快指数や有効温度を考える

と土の方がメリットがあるということですね。

畑中：それと、製造から破棄までのエネルギー全体も含めてですね。以前ドイツにいたときに不思議な体験をしたことがあります… マルティン・ラオホさん※オーストリアの版築アーティストという方の自宅(写真⑤)に泊めさせてもらったんですが、私は外泊したときに一泊目は寝れないんですけど、そこでは目を閉じて、開けた瞬間朝だったんですよ！ 版築でできたラオホさんの自宅は、敷地の土を掘って上に乗せただけなんですけど、めちゃくちゃ美しいんです。ゲストルームに泊めさせてもらって、2泊ともそういう眠りをしたんです。だから滋賀のホテルにも一面ですけど版築の壁があるので、もしかして…



三宅：それは海外旅行で疲れていたかアルコールのせいってことはないですか(笑)？

一同：笑

三宅：泊まっただけで科学的に解明できるわけじゃないんでしょうけど、分析すると何だと思われませんか？

畑中：何なんでしょう… 土のパワー(笑)

一同：笑

三宅：解明してほしいですね…

畑中：したいですね。でも温度計ってもわからないでしょうし、湿度計っても出てこないと思います。

三宅：エンジニアとして解明してもらいたい…

畑中：私的にはちょっと謎にしておきたいと…(笑)

一同：笑

畑中：でも滋賀のホテルに泊まってくれた人にも、よく寝れたと言って欲しいです。

三宅：他に住空間等で版築を取り入れたプロジェクトはありますか？

畑中：あります。これは一番始めに作った四畳半の版築構造で自立した“実験棟”なのですが。(写真⑥)



畑中：土をもっと知りたいと思ったときに自分で作らないと、と思ってチームを作ってセルフビルドして、土って冬暖かくて夏涼し



いって盲目的にいうのを、実際どうなのか測定したんです。そうしたらやっぱり冬は寒かったです。そこから色々な仕様を考えてケーススタディしました。夏場はすだれをかけて直接日を当たらないようにして、蓄冷効果を望めて年間の冷暖房負荷が20%くらい下がったんですね。それに加えて、これは嫌だったんですけど外断熱することで… 冬場の日射を蓄えて逃がさないようにしてやることで、何もしない状態から冷暖房負荷が削減できるという事がわかったんです。何より実体験として外断熱とすだれ

をした状態で夏場この中に入った瞬間に、何か透き通ったような空気感があって、例えば夏場に洞窟に入ったような涼しくて気持ちがいい。そんな体験をしたときに、デザインってこっちにいかないといけないって強く思ったんです。それは版築を熱としてみたいこうと思ったきっかけです。その後実験棟は壊されて、それを泣きながら見ました…

芦澤：じゃあこの土は敷地に戻っていったんですね。

畑中：そうです。これはマンションの工事残土をもらってきたんですけど、このときに帰ったんだと思って。ただ7年間壁として存在して、また自然生態系の土に戻っていったんだと思うと、なんて単純な素材なんだと思って改めて惚れ直した…

三宅：なるほど。そんな経緯で自然を建築に取り入れていく決意をされたんですね。

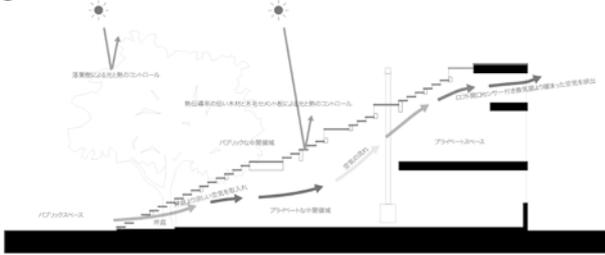
私は少し皆さんと違って、建物の形態だけで内部の「微気候」を造って、住環境を良くしようという考え方なんですけど、2006年に造った“階段の家”(写真⑦)は、建物形態だけで微気候を造ろうとしました。



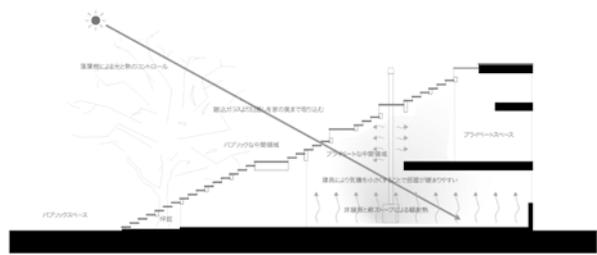
畑中：微気候の微というのは微調整の微ですか？

三宅：はい。これは建物の形態に沿って室内で暖まった空気が最上部で排熱するという造りです。また階段の屋根を南向きにして、蹴込みガラスから夏場は間接光だけを取り入れて、冬場は建物の奥まで太陽光を入れる。最初に芦澤さ

⑧



夏の気候に対するダイヤグラム



冬の気候に対するダイヤグラム

(c) y+M design office

んが言われた様な昔の家の作り方の応用ですけど、それを発展させていくために、純粋に建物形態だけで考えています。(ダイヤグラム⑧) もう少し最近の作品でいうと奈良の住宅なんですけど、これは先ほどの“階段の家”とは逆で、“北庭の家”(写真⑨)は北向きに傾斜屋根があ

ります。はじめから北側に庭を作ろうとして、北庭に太陽光を届けるために、建物の屋根形状を奈良の冬至の太陽高度に合わせました。たまたま北側にきれいな小川もあったので、そこから涼しい風を取り入れて、屋根に階段状のデッキを据えることで直射日光を避けることで遮熱の効果を狙っています。(ダイヤグラム⑩) 内部の空間は、本当に微量ですけど、何となく空気が動いているっていう住環境を目指しました。



(c) y+M design office

芦澤：それって大事ですね。

三宅：ちゃんと陽が入って風が通って、そういった普通の操作で室内環境がとっても良くなるんじゃないかと思っています。それは地域毎に変わってくるんですけど。

芦澤：なるほど… この住宅は現場を見せていただく機会がありましたが、屋根の断熱はどう

なってるんでしょう？

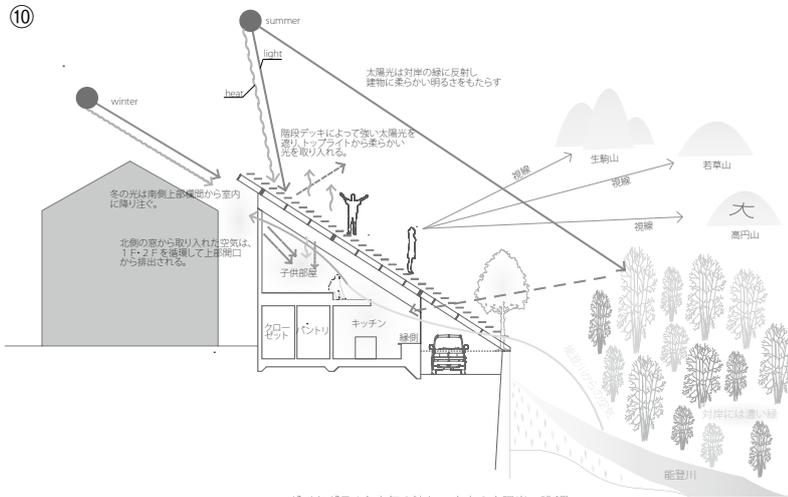
三宅：微弱に断熱しました。45mmのスタイロだけで。

芦澤：夏場もある程度いけるんですね。

三宅：そうですね。北向きに傾斜しているのは太陽光を受け流すという、デッキ素材が遮熱することで屋根を暖めないのが、夏場の住環境は非常に良いです。

畑中：このあいだ事務所(y+M design office)で沢山のデータ温度計を拝見したのですが、夏場は測定されたんですか？

⑩



ダイヤグラム(空気の流れ、南中の太陽光、眺望)

(c) y+M design office

三宅：6月くらいから“北庭の家”と“階段の家”と、もうひとつ、一般的な建売住宅の3邸に、温湿度測定機を設置して毎時間、計測しています。今までは実質的な測定データがなかったので、これまで住んでいた家との冷暖房の光熱費でしか比較できなかったんです。このままだと結局「エコ」で家計が助かるような方向になりそうで、よくないなという思いがあって、ちゃんとした湿度と温度でデータをとろうと思いました。

畑中：滋賀のホテルも取りたい…

芦澤：そうですね。

三宅：是非とってほしいです。版築を分析、解明してほしいです。

畑中：ほんとですね。眠りの秘訣を(笑)

三宅：宿泊客に何時間寝られましたか?というアンケートとか(笑)

畑中：出口調査(笑)

一同：笑

三宅：確かにデータはひとつのファクターとして重要だと思っています。でもそれだけで建築ができるわけじゃないと思っています。

芦澤：自然と建築の接点を考えていったときに、それだけでデザインができていく訳じゃないですよ。やっぱりそれぞれの人が操作というのをやっています。そこがポイントかなと思っています。勝手に自然のこと考えていたらできちゃったってものではないので…

三宅：そうですね。

芦澤：そこが表現なんだと思います。

三宅：今回、自然と建築の接点を考える多くの若手建築家を代表して座談会という形でお集り頂きました。それぞれの方が少しずつベクトルが違うだけで、さまざまな表現があることを再認識できる機会となりました。

本日はお忙しい中、お時間をさいいただき、本当にありがとうございました。

Profile

芦澤 竜一

1971年 横浜生まれ
 1994年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 1994～2000年 安藤忠雄建築研究所
 2000年 URBANFOREST ARCHITECTS 共同設立
 2001年～ 芦澤竜一建築設計事務所 主宰
 2006年～ 大阪市立大学生生活科学部非常勤講師
 2007年～ 近畿大学理工学部非常勤講師
 2009年～ 神戸大学大学院工学研究科非常勤講師
 2010年～ 京都市立芸術大学美術学部非常勤講師

賞歴

JCD 2002優秀賞・新人賞、第50回大阪建築コンクール 渡辺節賞・最優秀賞、Good Design Award 2004 グッドデザイン賞、JCD 2004奨励賞、日本建築学会作品選集入選、国際コンペ「URBAN-OPEN」1等(アメリカ シカゴ)、照明学会 第4回照明デザイン賞、JCD2006 銀賞/入選、2006 Religious Art & Architecture Design Award (アメリカ)、Good Design Award 2006 グッドデザイン賞、ロシア国際建築賞「PRESENT OF FUTURE」Space award(ロシア モスクワ)、関西建築家新人賞、SDレビュー2007 SD賞、第8回「DANTO TILE DESIGN CONTEST」大賞、建築家のあかりコンペ 住宅部門 入選、LEAF AWARD 2007「International building of the year」(イギリス)、日本建築家協会優秀建築選07 入選、ENERGY GLOBE AWARD 2007「National ENERGY GLOBE AWARD Japan」(オーストリア)、THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARDS AT CHICAGO ATHENAEUM 2008(アメリカ シカゴ)、Good Design Award 2009 グッドデザイン賞、日本建築家協会優秀建築選09 入選、6th Cycle 20+10+X Architecture Award(アメリカ)、住宅建築賞(東京建築士会)、第56回大阪建築コンクール大阪府知事賞、2010 Designing The Parks Awards HONOR AWARD for Site Design(アメリカ)、THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARDS AT CHICAGO ATHENAEUM(アメリカ シカゴ)、Design for Asia Award 2010 DFA Silver Award(香港)、第4回サステナブル住宅賞独立行政法人住宅金融支援機構理事長賞、平

成23年 日本建築士会連合会賞 奨励賞、THE INTERNATIONAL ARCHITECTURE AWARDS AT CHICAGO ATHENAEUM 2011 (アメリカ シカゴ)、パッシブデザインコンペ 住宅部門 佳作

* * * * *

畑中 久美子

1977年 兵庫県生まれ
 2002年 神戸芸術工科大学大学院修了
 2005年 一級建築士事務所畑中久美子デザイン室 主宰
 2006年～ 滋賀県立大学近江環人地域再生学座非常勤講師
 2007～2009年 神戸芸術工科大学非常勤講師
 2009～2010年 文化庁新進芸術家海外派遣制度にて ヨアヒム・エブレ建築設計事務所 (ドイツ)
 2012年～ 甲南大学非常勤講師

賞歴

2000年度日本建築学会設計競技「新世紀の田園居住」優秀賞、2003年度日本建築学会優秀修士論文賞『セルフビルドによる版築造の実験的試み』

* * * * *

三宅 正浩

1974年 島根県生まれ
 1997年 大阪市立大学工学部土木工学科卒業
 1997～2002年 積水化学工業株式会社近畿住宅支店
 2003～2006年 宮本佳明建築設計事務所
 2006年～ y+M design office共同設立
 2007年～ 穴吹キャリアアップカレッジ非常勤講師
 2010年～ 摂南大学工学部建築学科非常勤講師
 2011～2012年 大阪府立大学工業高等専門学校期限付講師
 2012年～ 大阪府立大学工業高等専門学校非常勤講師
 2012年～ TAC非常勤講師

賞歴

住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2007 支部長賞、グッドペインティングカラー

2007 優秀賞、住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2008 支部長賞、住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2008 製造産業局長賞、JIA優秀建築選2008 (日本建築家協会)、エコビルド賞2008、/GOOD DESIGN (グッドデザイン) 賞 2008、INAXデザインコンテスト2008 審査委員特別賞、グランドデザインコンテスト 入賞、サステナブル住宅賞 日本木造住宅産業協会会長賞、JCDデザインアワード2009 新人賞、キッズデザイン賞2009、JIA優秀建築選2009 (日本建築家協会)、Design for Asia Award 2009 SILVER AWARD、第1回 JIA中国建築大賞 優秀賞、2009年 電化住宅建築作品コンテスト 最優秀賞、作品選集2010 入選 (日本建築学会)、平成22年度 日事連建築賞 奨励賞、第55回 神奈川建築コンクール 優秀賞、住まいのインテリアコーディネーションコンテスト2011 特別奨励賞、くすのき建築文化賞 問道賞、第14回木材活用コンクール 特別賞、SDレビュー2011入選、Design for Asia Award 2011 Bronze Award、作品選集2012 入選 (日本建築学会)、JIA優秀建築選2009、INAXデザインコンテスト2011 審査委員特別賞、2011年 電化住宅建築作品コンテスト 優秀賞

事業経過報告

1. 平成24年新年互礼会

日 時：平成24年1月6日

場 所：西村屋 和味旬彩

参加者：正会員30人・賛助会員17人・来賓5人



2. 第1回マンション管理組合向け大規模改修実践講座（ガス設備改修・給排水設備改修）

日 時：平成24年1月28日

場 所：三宮サンパル5階セミナールーム

参加者：53人、関係者：16人

3. 第29回親睦ボウリング大会

日 時：平成24年2月4日

場 所：ラウンドワン三宮駅前店

内 容：会員並びに賛助会員との親睦

参加者：64人



4. 第2回マンション管理組合向け大規模改修実践講座（EV設備改修・電気設備改修）

日 時：平成24年2月4日

場 所：三宮サンパル5階セミナールーム

参加者：44人、関係者：15人



5. 神戸市役所4号館（危機管理センター）・見学会

日 時：平成24年3月16日

場 所：神戸市役所4号館

（危機管理センター）

内 容：危機管理センターの見学

参加者：34人

6.（兵庫地区・北地区）地区別研修会

日 時：平成24年3月26日

場 所：吉野石膏 神戸研修センター

内 容：第1部「グラスロック耐震壁による耐震改修工法のご提案」
「木造耐火構造建築物による新たなニーズのご紹介」

第2部 館内施設ご案内ツアー

参加者：13人

7. 平成23年度 第1回役員総会

日 時：平成24年4月6日

総 会 17：30～18：45

懇親会 18：55～20：30

場 所：ホテルモントレ神戸

出 席：29人

8. 平成24年度 第53回定時総会

日 時：平成24年4月27日

総 会 15：00～16：25

場 所：ラッセホール5階ハイビスカス

参加者：31人

9. 平成24年度 幹事会・役員総会

日 時：平成24年6月6日

総 会 17：45～18：55

懇親会 19：05～20：40

場 所：ホテルモントレ神戸B1F「髓縁」

参加者：29人

10. 第1回法規講習会

日 時：平成24年7月9日

場 所：兵庫県私学会館4階大ホール

内 容：・「景観法について」

- ・「都市の低炭素化の促進に関する法律及び神戸市建築物等における環境配慮の推進に関する条例」

- ・「神戸市主事取扱要領の改正について」

- ・「消防法の最近の動向について」



参加者：事務所協会神戸支部48人

建築士会37人

11. マンション改修セミナー

日 時：平成24年7月24日

場 所：神戸市すまいのあんしん支援センター

「すまいるネット」5Fセミナールーム

- 内 容：・高精度赤外線外壁調査について
- ・タイル張り建物の改修方法について
- ・大規模修繕工事の瑕疵担保保証について

参加者：神戸支部24人・阪神支部14人

**12. 第4回建築士事務所キャンペーン**

日 時：平成24年8月5日

場 所：水道筋商店街みずほ銀行灘支店前

参加者：6人

13. (共催事業) いきいき下町推進協議会

第1回こうべまちづくり学校専修講座(長田区野田北のまちづくり)

日 時：平成24年9月8日

場 所：鷹取カトリック教会
参加者：14人、関係者：11人

14. 東日本大震災視察研修

日 時：平成24年10月14日～16日
場 所：宮城県／南三陸・仙台市
参加者：正会員10人・賛助会員2人

15. (共催事業) いきいき下町推進協議会

**第2回こうべまちづくり学校専修講座(灘区
新在家南のまちづくり)**
日 時：平成24年10月27日
場 所：新在家地域福祉センター
参加者：18人、関係者：10人

16. (共催事業) いきいき下町推進協議会

**第3回こうべまちづくり学校専修講座(灘区
駒ヶ林のまちづくり)**
日 時：平成24年11月17日
場 所：駒ヶ林会館
参加者：13人、関係者：10人

17. 第3回マンション管理組合向け大規模改修実 践講座(後付EV設置現地見学会)

日 時：平成24年11月24日
場 所：UR都市機構アクティ学園西町
参加者：6人、関係者：6人

18. 平成24年度 建築士事務所キャンペーン

日 時：平成24年12月2日
場 所：六甲本通商店街の一面
(神戸市灘区森後町)
参加者：17人

19. (共催事業) いきいき下町推進協議会

**第4回こうべまちづくり学校専修講座(グ
ループ討議と意見交換)**
日 時：平成24年12月15日
場 所：こうべまちづくり会館3階
参加者：8人、関係者：10人



シティタワー神戸三宮 現場見学会

研修部 吉田 多雄

兵庫県建築士事務所協会神戸支部は7月19日(木)に神戸市最高層として話題となっているシティタワー神戸三宮の現場見学会を行いました。この見学会の案内を配布し申し込みを開始してから三日で定員締め切りとなったことから、この事業にとってもたくさんの方が関心を持っておられることが伺えます。参加者は27名でした。構造規模は地上54階、建物高さ190mとなっておりますが、ほぼ躯体工事は終了しており、現工程は屋上へリポートの作成段階となっております。竣工の来年2月に向け、いよいよ大詰めになってきておりますが、忙しい中、時間をとって見学会の申し出を受け入れてくださった大林組の皆様本当に感謝しております。

見学に先立って、建物概要についての説明を受けました。住戸が640戸、併設して設けられるホテルは185室であることなど、やはり桁違いのスケールであることを実感しました。構造的には100N/mm²のコンクリート、鉄筋はJIS規格超えの590N/mm²を採用、地下部分では免震層が設けられています。基礎底はGL-15m程度ですが砂礫土以外に粘性土が含まれていたことから、GL-21mまで掘削し、土質の置換を行なわれたそうです。地域の防災拠点にも指定されており、十分な安全性の確保するために最大限の力を注がれた事をお聞きできました。説明の後、工事用リフトに乗り、屋上まで登りました。



屋上からは市役所やミント神戸といった高層ビルをはるか下に見下ろして見ました。六甲山から見る眺めと違い、真下に高層ビルを見る風景は、

まさに圧巻でした。見学日は非常に暑い日でしたが、地上190mともなると空気が違い、暑さを感じる事はありませんでした。一度住んでみたいとも思いました。



建物中央部には大きな吹き抜けが設けられています。設備スペースとしての利用が計画されており、維持管理が非常にしやすい形状となっております。

各階の廊下はこの吹き抜けには開放されておらず、中廊下の形式となっていました。

最上階から階段で降りながら建物内部を見学させていただきましたが、当然のことながら下層に行くほど工程が進められており、床配管、断熱工事、内装下地、仕上工事など各工程ごとに様子を見ることができました。リフトに再度乗って地下まで行き、免震層の状況も見学させていただきました。



最後に商業施設棟に移動し、ホテルや店舗のエリアも見学させていただきました。ここが大勢の人でにぎわうようになると考えると完成が本当に楽しみでした。大変有意義な見学会でしたので、次回もまた良い計画ができればと思っております。

東日本大震災復旧復興状況の視察研修

前田信行一級建築士事務所 前田 信 行

はじめに

この紀行文を投稿するにあたり、震災による被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、文中、不適切な表現があるかも知れませんがお許してください。

10月14日

出発

10月14日 台風21号が沖縄地方に永く留まっている間、晴天の中、伊丹空港を飛び立った飛行機は、およそ一時間で順調に仙台空港へ到着しました。降下する機中の窓から見える光景は、たぶ



ん、津波による被害があった地域でしょうか、赤土色をした平地が見えます。すっかりきれいに復旧された空港からバスに乗り換えました。バスガイドさんより道中、当時の被害状況を聞きながら、車窓から見える光景に何も言えません。進みゆく道路を挟み海側は津波による大きな被害を受け、今はもう瓦礫が片付けられたようですが更地が多くみられました。飛行機から見た赤土色の平地はこれだったのでしょ。昼ごろに到着したのでまず、腹ごしらえに仙台名物の牛タンを頂きました。田中支部長は陸路、無事ここで合流し、この日の目的地の南三陸町へ復興状況の視察に向かいました。

南三陸



到着後、南三陸ホテル観洋の佐藤政美氏の案内で津波によるホテルの被害や周辺の生々しい状況を詳細に説明して頂きました。そして報道で有名な防災対策庁舎のある町の中心部に案内された時は、バスの中では皆が身を乗り出すようにして周囲の様子を見ていました。未だ、建築制限がかかっている地域ですので、建物を新築する事もできません。解体もしない建物、基礎だけが残っている敷地も多く残っています。あれからもう1年7カ月が経ちますが、町の中の瓦礫は片付いているようですが、周辺には流された自動車や瓦礫の





集積場所もたくさん見られました。見た眼には復興はまだまだのように感じました。バスを降り鉄骨の骨組みのままの防災対策庁舎の前では皆でお花を添え、黙禱をさせて頂きました。その後、町を見渡される海拔15m程の高台へ案内されました。ここには窓ガラスが破壊され、廃墟とした鉄筋コンクリート造平屋建の養護老人ホーム「慈恵園」がありました。海岸は遠くしか見えません。



その床高から約2mの位置まで津波が押し寄せ、多くの方が避難出来ず建物の中でお亡くなりになられたようです。その水位の痕跡がくっきりと部屋の壁に残ったままでした。また、高台から見渡す景色は本当にここに町並みがあったのだろうかと思わす合掌させていただきました。



■ 仮設の商店街

仮設の商店街があり、全国からの視察に訪れる観光客でにぎわっているようでした。会員の方々も現地に少しでも貢献しようと、お土産物を買って帰られた方もいらっしゃいました。仮設店舗の使用期限もあるようですが、頑張っ町に活気を戻して頂きたいものです。



■ あさひ幼稚園

7月に竣工した幼稚園舎を見学に行きました。旧園舎は津波で全壊しました。近くの大雄寺の参道で被災した樹齢200年の杉の大木を建材に使い、できる限り金具を使わない工法を取り入れ、和風調の平屋建て園舎に仕上げられています。設



計者は手塚貴晴氏と由比氏。テレビ取材もあった建物です。見学とは言ってもこの日は日曜日ですし、当園に見学の約束を取っている訳で無く、外観だけでも見せて頂こうと企画していました。しかし、我々のバスが到着したと同時に、幸いにも関係者と思われる方が初対面の我々を園舎に導いてくださり見学をさせていただきました。なんと園長の小島孝尋氏でした。本当にありがとうございました。

■南三陸町の総合体育館ベイサイドアリーナ

避難所にも使われたそうですが、震災関連資料の見学をしました。写真パネル、新聞記事、被災者の想い想いの詩などが展示されていました。震災前の町の様子と現況の比較がとてもよく分かりました。



■ホテル観洋

海に面しているという、このホテルは旅行社からの事前情報とは違い、素晴らしい眺望でした。この日の海はとても穏やかで、この景色があの日一変したとはとても想像はつきませんでした。夕



食の宴も楽しく、温泉浴場も心地よく、各々会員同士が一日目の視察の感想を語りながら旅の疲れをとる事が出来ました。

10月15日

■せんだいメディアテーク



伊東豊雄氏設計のせんだいメディアテークを視察しました。この建物は美術や映像文化の活動拠点であると同時に、すべての人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行い、使いこなせるようにお手伝いする公共施設です。全建賞、グッドデザイン賞、建築学会作品賞、公共建築賞等様々な賞を受賞し、当時から話題の建物です。天井材が落ちる等、内装は大きな被害を受けました。その他、構造的にも斬新な建物ですが地震の揺れをしっかりと受け止めたようです。我々建築関係者の見る目はそれぞれです。デザイン、構造、設備、建築関係法規など様々な意見が飛び交いました。さすがに話題性のある建物でした。

■宮城会との意見交換会



さて、いよいよ、この日は仙台市内のホテルで宮城会との意見交換会です。何カ月も前より本部と協力しながら進めてきた事業です。無事成功するよう願うばかりです。参加者は宮城市職員（神戸市からの派遣）2名、宮城会からは栗原会長、高橋清秋副会長、渡辺副会長、高橋亨次副会長、松田専務理事に参加頂き、神戸支部の伊田会員にも東北支店より駆けつけて頂きました。昼食の歓談



の後、それぞれ東北の現況や報告を発表して頂き、わが神戸支部からは竹中（兵庫会副会長）会員より阪神大震災時の状況と復・復興について発表して頂きました。あっという間に時間は過ぎ、予定の2時間を10分ほど超過してしまいました。東日本大震災では津波被害がクローズアップされましたが、阪神大震災と同様、揺れによる被害も多くありました。共通として、耐震性が低い建物の耐震改修等の重要性を改めて感じました。この交流会の様子は3月発行予定の別冊、兵庫県建築士事務所協会本部広報誌「くすのき」にて掲載の予定ですのでご覧ください。尚、この企画にご尽力を頂きました宮城会の皆様、本部関係者、支部関係者、旅行社の担当者の方々。有意義な会となりました本当にありがとうございました。

■青葉城址～秋保温泉（宿泊地）



無事、交流会も終わり、「ほっ」と一段落したところで一行は青葉城址へとむかいました。1610年に伊達正宗公によって築かれたお城の本丸跡地でここからは市内を一望出来ました。

被災をした都市とは全く判らぬ美しい街並みでした。ここで、山本会長は所用があり、お別れと

なりました。意見交換会への気苦労は大変でしたでしょう。お疲れ様でした。その後、宿泊先の秋保温泉へと向かいます。移動中、現地のバスガイドさんの説明で、震災で家を失った方々の移転先である仮設住宅の一団地が見えました。その隣接地には、震災の被害が無かった新興住宅地が広がっています。この無情は何でしょう。阪神大震災でも同じような光景を見たことと。いろいろと考えさせられます。

秋保温泉では老舗旅館の「佐勤」に泊まりました。佇まい、温泉、食事。全て満足。



10月16日

■ 五大堂・瑞巖寺

伊達政宗公の菩提寺である禅寺を見学しました。残念ながら平成の大修理が行われており、一部しか見ることができなかったのは残念ですが、担当の専属ガイドさん（ガイド会社の社長様らしい）は高齢ですがユーモアもあり、流ちょうな言葉で楽しく案内して頂きました。ここでも津波の影響で朽ちる恐れのある境内の杉の木を伐採中など、まだまだ震災の影響があるのだと感じました。



■ 松島港～遊覧船～塩釜港



松島を遊覧船でめぐりました。客室は3階建てです。1階から2階、3階へと上がるに従い、内装等は居心地が良くなるように造られています。当然、値段も順次アップして行きます。我々は少し贅沢に2階から観光させて頂きました。いろいろと、島の形や取り付く岩の形からもそれなりの動物や言われのある名前が付けられていたようですが、その形も津波、揺れの影響で、いくらかは形を崩しているようでした。しかし、この湾に点々とある景勝の島々が陸地へ押し寄せる巨大な津波を小さくさせたようです。塩釜港に無事着き、ここでは前日の山本会長に続き、田中支部長も理由あり陸路、神戸へと立たれました。今回の事業について支部や本部との調整ありがとうございました。



■武田のかまぼこ工場～仙台空港～帰路



仙台の ささかまぼこ は、牛タンと並び名産品です。津波にて水没した、かまぼこ工場の製造工程を見学し、土産物も買って、仙台空港へと帰路に向かいます。道中、またも海岸沿いの幹線道路を進むのですが、車窓からは初日に見た光景と同じです。まだまだ、瓦礫の山は集積地に残ったまま。被災にあった建物も、そのまま……。復興



は進んではいるのですが、また私達が経験した阪神大震災の状況と比較することも難しいでしょうが、何故か復興速度が緩やかに見えました。

■おわりに

昨年の3月11日に未曾有の大災害に見舞われた東北被災地の状況を前々から気にしながら、1年2か月が過ぎようとしていた4月末。私は支部通常総会を経て今年度より支部事業部の担当をする事も決まり、終了後、新役員数名と毎年恒例の支部研修旅行の話題となりました。会員の中から『未だ被災地を訪ねたことがない。一人で行っても何ができる？でも専門性を生かして何かしら現地で貢献したい。』『地元の建築士との意見交換会をしたい。』『堅苦しいことは抜きで、現地へ行って宿泊、食事などしてくるだけでも経済貢献ができるのでは？』という様々な意見が出ました。行くなら今でしょう。でも、遠方です。2泊は必要でしょうし、会員の皆様は忙しいうえ、費用負担も大きくなることは想像できます。

それが、今回皆様のいろいろな思いが視察研修を実現させてくれました。そして神戸市、仙台市、宮城会、兵庫会本部、神戸支部役員、旅行社、他支部会員、賛助会、その他多くの方々のご理解と

ご協力によりとても有意義なものとなりました。
本当にありがとうございました。

また、現地に足を踏み入れて自然災害の恐ろしさを改めて考えさせられました。専門職業が少し

でも生かされますよう日々切磋琢磨しなければと
も。機会があれば同じ場所を定点観測として訪ね、
影ながら復興を応援して行きたいと感じました。

最後に『がんばれ東北、がんばれ日本』。

東日本大震災 復旧・復興状況の視察研修

研修日：平成24年10月14日(日)～16日(火) 研修先：東北 南三陸温泉・秋保温泉、仙台

月日	行程	宿泊
1 10/14 (日)	<p>全日空733便 伊丹空港 → 仙台空港 === 仙台空港IC === 仙台市内(昼食) ===</p> <p>10:00 11:15 / 11:40 12:00 12:50</p> <p>*伊達の牛タン本舗六丁の目東インター店 tel:022-287-5968</p> <p>一旦ホテルへ、ホテル到着後、 南三陸町/あさひ幼稚園車窓見学と津波の被害のあった町をガイドの案内で廻ります】 「南三陸ホテル観洋南館」</p> <p>14:30～15:00頃 16:30～17:00頃 防災対策庁舎・小学校あとなど(解体済み、又は解体作業中の施設もございます)</p>	<p>【南三陸温泉】 南三陸ホテル 観洋南館 Tel:0226-46-2442</p> 
2 10/15 (月)	<p>ホテル === (三陸道) === 仙台市せんだいメディアテーク見学 =====</p> <p>8:50 10:50 11:40 tel:022-711-2580</p> <p>ホテルJALシティ仙台にて昼食と === 現地建築士事務所協会意見交換会 ===== 青葉城跡 ===== 「佐勤飛天」</p> <p>12:00 12:30 ~ 14:30頃 15:00 16:00 16:30頃</p>	<p>【秋保温泉】 伝承千年の宿 佐勤 Tel:022-398-2233</p> 
3 10/16 (火)	<p>専任ガイドのご案内 *洗心庵 tel:022-354-3205</p> <p>ホテル === 山田IC === 松島海岸IC === 瑞巖寺・五大堂 / 昼食 ===</p> <p>9:00 10:00 11:20 11:30~</p> <p>遊覧船 === 松島港 ~~~ 塩釜港 === 武田のかまぼこ工場(見学・お買物) ===</p> <p>13:00 13:50 14:10 14:50</p> <p>=== 仙台市内沿岸部経由(車窓より視察) === 全日空738便 仙台空港 → 伊丹空港 16:20 17:35 18:55</p>	

(一社)兵庫県建築士事務所協会 「東日本大震災 復興・復旧状況視察研修」参加者

	役 職	事 務 所 名	氏 名
1	兵庫会 会長・神戸支部	(株)山本設計	山本康一郎
2	兵庫会 副会長・神戸支部	一級建築士事務所 ブラーム190	竹中 郁雄
3	阪神支部 支部長	(有)才本建築事務所	才本 謙二
4	兵庫会 理事・神戸支部	(株)アーキノヴァ設計工房	柏本 保
5	神戸支部 支部長	パウレ設計室	田中 邦男
6	兵庫会 理事・神戸支部副支部長	TETU：徹建築設計事務所	岡田 徹
7	兵庫会 理事・神戸支部事業部長	前田信行一級建築士事務所	前田 信行
8		同上 所員	藤田 秀人
9		同上 所員	志水 保次
10	神戸支部 総務部部長	廣原一級建築士事務所	廣原 俊元
11	神戸支部 事業部副部長	(株)創建設計事務所	佐川 圭
12	神戸支部 事業部委員	(有)アムワークス建築設計事務所	赤松 正憲
13	兵庫会 賛助会会長	大阪ガス(株)	平井 保夫
14	神戸支部 賛助会会員	(株)北村鉄工所	北村 憲司

● 灘区住宅無料相談会 ●

第4回建築士事務所キャンペーン報告

日時：平成24年8月5日(日) 10:00~15:00

場所：水道筋商店街みずほ銀行 灘支店前(神戸市灘区水道筋3丁目) 参加者：6人

灘区地区別協議会幹事 成瀬 秀一

設計事務所の生き残り策として「まちの設計屋さん」構想がある。新たな職域の拡大として地域密着を計り、地元根差す設計事務所である必要がある。地産地消をテーマとして、地元の仕事は地元の業者で行ない、地元で物を買ひ、地元でお金を使い、地元でお金を循環させて、地元を活性化させる。その一翼を担うために、地元で事務所協会を知っていただく必要がある。灘区役所、水道筋商店街、灘消防署の協力を仰ぎ、事務所協会の知名度向上のためのキャンペーンである。

住宅相談結果

1. 年代

30才代	1人
40才代	3人
50才代	2人
60才代	3人
70才代	2人
80才代	1人
合計	12人

2. 地域

灘区内	12人
神戸市内	0人
市外	0人

3. すまいで気になることは？

防犯対策	1人
耐震、防災対策	2人
シロアリ	1人
バリアフリー	2人
劣化に関する事	5人
雨漏り	1人

4. リフォームにいくらかけられるか？

10万円以下	4人
10万~50万円	1人
50万~100万円	1人
100万~300万円	1人
300万~500万円	2人
500万~1000万円	1人
1000万円以上	0人

5. 信頼できる業者はありますか？

知人・身内	2人
自宅を建てた業者	3人
大手建築業者	1人
地元の建設業者	4人
いない	2人

6. 住宅相談会を行なうのにはどこがよいか？

役所(区・市)
市の施設
銀行
イベント会場
地域の会館
商店街
地元のスーパー
ハウジング・センター

7. アンケート結果から

住宅相談には6人が手分けして行なった。

- 川の近く住まわれていることから、最近の異常気象に不安を覚えられて、地盤の事について相談を受けた。
- 地元の強みを生かし付近の地盤の状況を説明し、影響の少ないことを伝えた。
- 家具固定の方法について説明を求められたので、補助についても説明をした。
- 自分自身で外壁の工事をされたが、思うようにできず相談に来られた。
- 自分自身で作業を行ないたいというので、材料と作業方法を伝えた。

8. その他

灘消防署の方々は、会場前を通行される方に、住宅用火災報知器のチラシ等を、勢力的に配布され、住宅用火災報知器の普及活動をされていた。

時間前より相談があり、滑り出しは良かったが、閉めてしまえばオリンピックの影響で、すべての事業が半分以下で終わった。

アンケートについては昨年26人頂いたが今回は12人に留まった。

いつもであれば、イスづくりも閉会までに用意した30脚は足りなくなるが、今回は14脚に留まった。包丁研ぎは13人29丁研がしていただいた。

募金箱を設置したところ5,030円集まったので、灘区社会福祉協議会にお届けしました。

主催

(一社)兵庫県建築士事務所協会神戸支部・兵庫県土建一般労働組合灘支部

後援

灘区役所・灘消防署・神戸市すまいの安心支援センター・水道筋商店街協同組合



住宅相談コーナー



灘消防署キャンペーン



イス製作風景



包丁砥ぎ風景

第4回 灘区住宅無料相談会

平成24年8月5日(日) [10:00~15:00]

【会場】 灘区水道筋3丁目 水道筋商店街みずほ銀行 灘支店 前

【内容】 住宅相談会 耐震診断・耐震改修を含む住宅相談全般
住宅用火災警報器の紹介

【費用】 原則無料(チラシの頒布を設け、全額社会福祉施設に寄付)

木工教室 椅子づくり 先着30名
※材料は各自で用意し持ち込みますので、持参していただきます。

アンケートに
答えていただく
先着の名称に
相談券呈

包丁砥ぎ(1家庭-2本まで) 先着50本ほど
※刃こぼれのない、研ぎは必ずらせて頂く必要があります。

主催) 兵庫県建築士事務所協会 灘支部・兵庫県建築士事務所協会 神戸支部
後援) 灘区役所・灘消防署・水道筋商店街協同組合・神戸市すまいの安心支援センター

●相談会連絡先 TEL.078-862-0810(成瀬設計事務所 成瀬秀一)

●神戸市すまいの安心支援センター共催セミナー●

第1回マンション管理組合向け大規模改修実践講座(設備改修編)

日 時：平成24年1月28日(土) 14:00~16:00

場 所：三宮サンバル5階セミナールーム(神戸市中央区雲井通5-3-1)

共催セミナー担当 成瀬 秀一

(1)開会挨拶 神戸市すまいの安心支援センター

(2)開会挨拶 神戸支部 支部長 山本 康一郎

(3)設備の改修工事

「設備改修コンサルタントの実務」

講師：(一社)兵庫県建築士事務所協会

副会長 柏本 保

(4)マンション大規模修繕工事におけるガス設備の改修について

「都市ガスを安全・快適にお使いいただくために」

①安全なガス設備を維持するための改修工事

②エコライフを実現するための改修工事(ライフスタイル、家族構成に最適のガス設備導入)

講師：(一社)兵庫県建築士事務所協会

賛助会会員

大阪ガス(株)兵庫リビング営業部

都市開発チーム営業第一グループ

平井 保夫

(5)給排水設備の改修工事

「給排水設備改修工事の進め方」

講師：(一社)兵庫県建築士事務所協会

賛助会会員

日本水理株式会社営業本部

第2ブロックブロック長 金間 肇

(6)閉会挨拶 神戸支部 副支部長 岡田 徹

(7)(講習会終了後)ガス・給排水グループ別団体相談会30分間限定で開催

第1回マンション管理組合向け 大規模改修実践講座《設備改修編》

参加者アンケート(1月28日(土)開催 ※晴天)

事前申込者数	68	
セミナー参加者	53	+関係者 16
アンケート回収数	37	69.8%

●年齢

30代	1	2.7%
40代	2	5.4%
50代	3	8.1%
60代	18	48.6%
70代以上	12	32.4%

●性別

男性	24	64.9%
女性	1	2.7%
未記入	12	32.4%

●管理組合との関係(複数回答)

理事長	8	21.6%
役員	7	18.9%
区分所有者(役員経験あり)	15	40.5%
区分所有者(役員経験なし)	1	2.7%
管理人・管理会社関係者	3	8.1%
その他(修繕委員、マンション管理士)	2	5.4%
未記入	1	2.7%

●セミナーを何で知りましたか。(複数回答)

広報誌こうべ	5	13.5%
新聞()	1	2.7%
すまいるネットHP	9	24.3%
すまいるネットからのDM	15	40.5%
ちらし(セミナー、元町プラザ)	5	13.5%
知人の紹介	5	13.5%

●「マンション管理基礎セミナー・講座」の参加

今回初めて参加	3	8.1%
以前も受講したことあり	34	91.9%

●セミナーはいかがでしたか。

【設備の改修】

とてもよかった	7	18.9%
よかった	15	40.5%
ふつう	12	32.4%
あまりよくなかった	2	5.4%
よくなかった	0	0.0%
未記入	1	2.7%

【ガス設備の改修】

とてもよかった	7	18.9%
よかった	18	48.6%
ふつう	11	29.7%
あまりよくなかった	0	0.0%
よくなかった	0	0.0%
未記入	1	2.7%

【給排水設備の改修】

とてもよかった	10	27.0%
よかった	16	43.2%
ふつう	8	21.6%
あまりよくなかった	1	2.7%
よくなかった	0	0.0%
未記入	2	5.4%



神戸市すまいの安心支援センター 共催セミナー
マンション管理組向け 大規模改修実践講座
《設備改修編》

～ 快適に暮らせる設備改修に向けて～
 【主催】(社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部・神戸市すまいの安心支援センター

マンションの快適な住環境、維持保全の確保には、建物本体だけでなく、暮らしに直結した様々な設備の改修・性能向上を進めていかなければなりません。高齢者福祉計画に基づき、設備の老朽化や容量不足に伴うトラブルを防止するだけでなく、高齢化に連帯、資産価値の向上、快適に暮らせる設備改修に向けて…管理組合としての取り組み方法…実務経験豊富な「兵庫県建築士事務所協会 神戸支部」の建築士や賛助会員の設備会社、改修時期や共用・専用部分の工事の進め方など、実践に向けた講座を開催いたします。

●(第1回) H24年 1月28日(土) ガス設備 & 給排水設備 改修編
 【講師】(社)兵庫県建築士事務所協会 副会長 松本 貴 氏
 賛助会員 大庭ガス(株) 倉

●(第2回) H24年 2月 4日(土) 電気設備 & エレベーター設備 改修編
 【講師】(社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部 専攻講師 池水 和寿 氏
 賛助会員 関西電力(株) 倉

【時間】各回共 14:00～16:00(受付13:30～)
 【場所】すまいのネット セミナールーム(サブ13.5階)
 【定員】50名(※申込み多数の場合は抽選) 【受講料】無料

【参加申込み締切】各回1週間前
 講師の参加申込みに記入の上、講師の個人や企業名を公表しないことを目的とした趣向を凝らした「匿名」での申込みが可能です。
 【お問い合わせ先】神戸市すまいの安心支援センター

申込・問合せ先
 神戸市すまいの安心支援センター すまいのネット
 (10:00～17:00、水曜定休日)
 〒651-0206 神戸市中央区南長狭通 6-1-1サンパル4階
 【電話】078-222-0186
 【FAX】078-222-0106
 【HP】<https://www.smailnet.kobor-net.or.jp/>

〒100-0001 東京都千代田区千代田 3-1-1
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 3-1-1
 〒100-0001 東京都千代田区千代田 3-1-1

※今回は神戸市すまいの安心支援センター様が作成された資料を記事にさせて頂きました。

●神戸市すまいの安心支援センター共催セミナー●

第2回マンション管理組合向け大規模改修実践講座(設備改修編)

日 時：平成24年2月4日(土) 14:00~16:00

場 所：三宮サンバル5階セミナールーム(神戸市中央区雲井通5-3-1)

共催セミナー担当 成瀬 秀一

(1)開会挨拶 神戸市すまいの安心支援センター

(株)きんでん 電力システム部 主任

(2)開会挨拶 神戸支部 支部長 山本 康一郎

久保 昌千

(3)設備の改修工事

(5)エレベータ設備の改修工事

電気・エレベータ設備について

最近のリニューアルの施工方法

講師：(一社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部

講師：(一社)兵庫県建築士事務所協会 賛助会会員

副支部長 迫水 和裕

菱電エレベータ施設(株) 神戸営業所

(4)電気設備の調査と改修について

所長 野村 幸治

電気設備の課題(経年劣化・容量不足)

三菱電機ビルテクノサービス株式会社

関西電力における電気幹線設備調査事例

兵庫支店 昇降機モダニゼーション課

電気幹線改修工事 イメージ

係長 柳原 正明

講師：(一社)兵庫県建築士事務所協会 賛助会会員

(6)閉会挨拶 神戸支部 副支部長 迫水 和裕

関西電力株式会社

(7)(講習会終了後)電気・EVグループ別団体相談

副部長 栗岡 英明・係長 玉田 義樹

会30分間限定で開催

第2回マンション管理組合向け大規模改修実践講座《設備改修編》
参加者アンケート(2月4日(土)開催 ※晴天)

事前申込者数	66	
セミナー参加者	44	+関係者 15
アンケート回収数	38	86.4%

●年齢

30代	0	0.0%
40代	4	10.5%
50代	3	7.9%
60代	17	44.7%
70代以上	14	36.8%

●性別

男性	21	55.3%
女性	2	5.3%
未記入	15	39.5%

●管理組合との関係(複数回答)

理事長	9	23.7%
役員	6	15.8%
区分所有者(役員経験あり)	15	39.5%
区分所有者(役員経験なし)	1	2.6%
管理人・管理会社関係者	3	7.9%
その他(マンション管理士)	4	10.5%



●セミナーを何で知りましたか。(複数回答)

広報誌こうべ	4	10.5%
新聞()	0	0.0%
すまいるネットHP	8	21.1%
すまいるネットからのDM	15	39.5%
ちらし(セミナー、コムスタこうべ)	8	21.1%
知人の紹介	5	13.2%
その他(事務所協会)	2	5.3%

●「マンション管理基礎セミナー・講座」の参加

今回初めて参加	2	5.3%
以前も受講したことあり	36	94.7%

●セミナーはいかがでしたか。

【設備の改修】

とてもよかった	4	10.5%
よかった	16	42.1%
ふつう	13	34.2%
あまりよくなかった	4	10.5%
よくなかった	1	2.6%

【電気設備の調査と改修】

とてもよかった	6	15.8%
よかった	18	47.4%
ふつう	14	36.8%
あまりよくなかった	0	0.0%
よくなかった	0	0.0%

【エレベーター設備の改修】

とてもよかった	5	13.2%
よかった	16	42.1%
ふつう	12	31.6%
あまりよくなかった	2	5.3%
よくなかった	0	0.0%



※今回は神戸市すまいるの安心支援センター様が作成された資料を記事にさせて頂きました。

●いきいき下町推進協議会参画事業●

第1回こうべまちづくり学校専修講座

運営委員 成瀬 秀一

現場で学ぶ住民主体のまちづくり。〈長田区野田北部地区〉

実施日時：平成24年9月8日（土）

13：30～17：30（13：00受付開始）

集合場所：鷹取カトリック教会中庭

内 容：組織づくり、連携の好例として、長田区の「野田北部地区」を訪れ、地域の方の話と現地の見学を通じて、様々な組織の緩やかなネットワークの構築と連携の実際について学ぶ。

視 点：住民主体のまちづくり活動は、さまざまなネットワークや支援、協力をともない展開される。しかしながら、継続を前提にしている「まちづくり」では、中核となる地元（「場」）に将来を担える人材が不足しがちである。「野田北部」では、これまでのまちづくり活動（阪神淡路大震災～現在）において、より接続性を可能とする「人材」を地域内外（行政や専門家を含む）の「連携」でこの「場」にふさわしいまちづくりを展開してきた。野田北部住民のこれまでの活動と関わらざるを得なかった背景を知ることによって「まちづくりの継続」のヒントを得、神戸市の各地域でのまちづくり活動の教訓にする。

13：30

本日の予定案内

13：35～15：40

講義・座学・シンポジウム（敬称略）

1部 震災復興編（1995年震災～ハード）

コーディネーター 三輪康一（神戸大）

小野義明（住民）

震災前後から「まちづくり」活動に関わった・関わるざるを得なかった背景を経験談を通じて語った。

浅山三郎（住民組織）

震災前「まちづくり協議会」をつくった時のきっかけ、震災復興で最も印象深い出来事の披露、「まち協」のリーダーとしての心構え（まちづくり活動を継続させるためのヒント）

小川直樹（行政）

被災直後からの住民・住民組織への支援で最も「よかった」と思える事。

行政における震災時と非常時の違い。野田北部の印象などを語った。

森崎輝行（専門家）

住民と行政の翻訳、橋渡しなどの連携事例（仮換地案、目に見える展開）をハード整備の進捗に合わせ報告した。





2部 日常編（震災2003年美しいまち宣言～ソフト）
河合節二（住民組織）・太田耕司（行政）・松原永季（専門家）

3部 総括編（会場内全員での意見交換、質疑応答）

15:50～17:30 現地実習（見学）

- ・TCC鷹取コミュニティセンター（救援基地・鷹取カトリック教会内）
- ・海運双子池公園（ワークショップでつくられた・土地区画整理碑）
- ・野田北部集会所（仮設住宅、来年度早々に取り壊し新たな出発へ）
- ・エヴァタウン海運（3人の地権者が事業協力・市営住宅と民借賃住宅）
- ・大国公園（阪神淡路大震災時、さまざまな意味で大いに機能した。わかばの舞台）
「わかば」は、2004年9月～05年3月放送。NHK朝ドラ。主演：原田夏希さん
- ・旧野田北部集会所（被災時の野田北部まちづくり協議会の拠点）
- ・被災地最初の共同化「カサベラ鷹取」

- ・妹尾河童作、少年「H」の舞台、イムヌエル教会
- ・UD看板（ごみステーションの五ヶ国語看板）
- ・国道2号線（長楽4）
- ・きんぼうじゅ通り（公社分譲住宅、戸建住宅など後退部分が多い路線、スポット創生事業など）
- ・サルビア通り（駐輪を困難にした路地舗装、一部撤去）
- ・駅前駐輪場（指定管理制度）

17:30

解散（JR鷹取駅）



※今回はいきいき下町協議会の次第を参考に記事にさせていただきました。

●いきいき下町推進協議会参画事業●

第2回こうべまちづくり学校専修講座

運営委員 成瀬 秀一

現場で学ぶ住民主体のまちづくり。〈灘区新在家南地区〉

実施日時：平成24年10月27日（土）

13：30～17：30（13：00受付開始）

集合場所：新在家地域福祉センター

内 容：住環境改善、歴史的街道整備、街並み形成から津波防災や環境学習まで、幅広く活動する灘区の「新在家南地区」を訪れ、地域の方のお話と現地の見学を通じて、まちづくり協定・景観誘導指針などのルールづくり、西国浜街道の整備、津波防災計画など、総合的・多角的な取り組みについて学ぶ。

13：30

本日の予定案内

13：35～15：40

講義・座学（敬称略）

コメンテーター伊集院定義（元灘区役所）

1部 新在家まちづくり委員会の取り組み

田中正人（コンサルタント）

まちづくり委員会のこれまでの取り組みをダイジェストで紹介し、総合的・多角的な取り組みの大切さ、むずかしさ、おもしろさなどについて話した。

2部 近年の活動（防災・減災まちづくり）

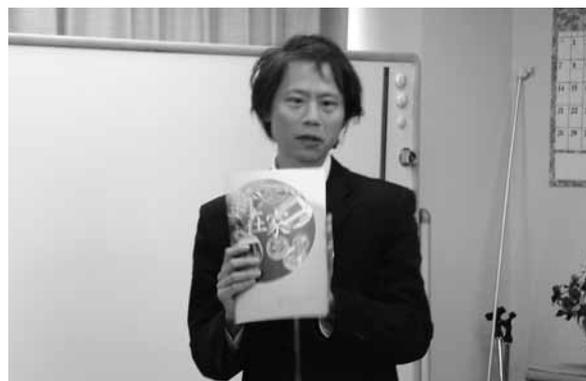
加藤正博（まちづくり委員会会長）

近年、まちづくり委員会が取り組んでいる防災・減災計画を中心に、これまでの成果やこれからの課題について話した。

3部 近年の活動（環境部会の取り組み）

明石文史郎（まちづくり委員会事務局長）

地域の自主的な環境測定・モニタリングから、「キャンドル・ナイト」や環境学習まで、大人から子どもまで幅広い世代を巻き込んだ、さまざまな環境に関する取り組みを紹介した。



15:50~17:30

現地実習(見学)

- ・だんじり
- ・新在家運河
- ・妙善寺薬医門
- ・妙善寺鐘楼
- ・妙善寺の桜
- ・サザンモール
- ・酒蔵の道
- ・旧西国街道
- ・大石住吉神社
- ・若宮八幡宮
- ・都賀川(大石川)

17:30

解散(新在家地域福祉センター)

※今回はいきいき下町協議会の次第を参考に記事にさせていただきました。

新在家南町

新在家南地区まちづくり協定

まちの約束事

暮らしのルール

■買物の車は慎重にしましょう
 清潔で快適よく働きよい街にするために、右左の区別、色、目印等を適切に配置し、敷地内の歩道及び敷地周辺の緑化など周辺に配慮を心がけるようにしましょう。

操業のルール

■手動式等は行き止まりスペースを確保しましょう
 路上で仮置き駐車をするため、同一面積(100㎡)以上のスペースは、行き止まり駐車スペースを設けます。また、同一面積が100㎡未満の小規模な場合でも、行き止まり駐車スペースを確保するように努めます。

建物用途のルール

■買付・更地開発等には注意しましょう
 清潔で快適よい街を実現するため、地味色では風防壁(フェンス、ゲートセンター等)または風防透視壁(モール等)及びカーテンボックス等の用途の建築物は建築できません。

■既存住宅はファミリータイプを確保します
 地区内居住者のバランス内における家賃構成を確保すること、地区内の子育て世代の増加、地区内の子育て世代の増加などを考慮する場合は、ファミリー型住戸を住戸数の1/3以上確保するように努めます。
 ○ファミリー型住戸とは20㎡以上の住戸を指します。
 ○家族人数が増減など多様な住戸を確保した場合はこの限りではありません。

・小規模な建物・

建築設備の位置・形態
 室外機、給排水などは見えにくい位置に設けるなど、周辺の景観に配慮します。

屋根
 勾配屋根とし、瓦を感じさせる落ちついた色調とします。

敷地内空地
 酒蔵のまちになじむ植栽を適正に配慮します。

敷地内空地
 石畳などの仕上げとします。

外壁
 酒蔵のまちにふさわしい仕上げとし、落ちついたグレー、ブラウンを基調とします。

塀
 金網フェンス、ブロック塀は避け、酒蔵のまちになじむ景観とします。

・大規模な建物・

ベランダなど
 実用性が見えない工夫をするなど景観に配慮した景観とします。

屋根
 勾配屋根とし、瓦を感じさせる落ちついた色調とします。

敷地内空地
 酒蔵のまちになじむ植栽を適正に配慮します。

敷地内空地
 石畳などの仕上げとします。

外壁
 酒蔵のまちにふさわしい仕上げとし、落ちついたグレー、ブラウンを基調とします。

塀
 金網フェンス、ブロック塀は避け、酒蔵のまちになじむ景観とします。

●いきいき下町推進協議会参画事業●

第3回こうべまちづくり学校専修講座

運営委員 成瀬 秀一

現場で学ぶ住民主体のまちづくり。〈長田区駒ヶ林地区〉

実施日時：平成24年11月17日（土）

13：30～17：30（13：00受付開始）

集合場所：駒ヶ林会館

内 容：住民主体のまちづくりの進め方—ものづくりの取り組み
路地を生かしたまちづくりをめざす長田区の「駒ヶ林地区」を訪れ、地域の方のお話と現地の見学を通じて、細街路整備などの密集市街地の課題の取り組みについて学ぶ。

13：30

ガイダンス説明

13：35～15：20

講義

1部 駒ヶ林まちづくり協議会の取り組み

北村美代子（まちづくり協議会副会長）

駒ヶ林まちづくり協議会の取り組みについて、スライドを用いてダイジェストで紹介し、人情あふれる下町でのまちづくりのあり方について話した。



2部 密集市街地でのものづくり

松原永季（コンサルタント）

駒ヶ林地区で実施しているスポット創成事業（空地の対策、広場の整備）細街路整備事業（路地の整備）近隣住環境計画（路地を生かしたまちづくり）について説明し、木造の建物が密集した市街地での「ものづくり」の取り組みを紹介した。



15：30

現地研修（まちあるき）

荒天のため、パワーポイントによる模擬まち歩きを実施

松原永季（コンサルタント）

「駒ヶ林地区」まちづくりの見どころ

- 歴史と文化 駒ヶ林神社～腕塚堂～屋台小屋～胴塚
- 暮らしと生業 魚市場～戎神社～長田港～長屋のまち～古民家改修
- 防災・減災 ひがっしょやすらぎ広場～路地の整備事例

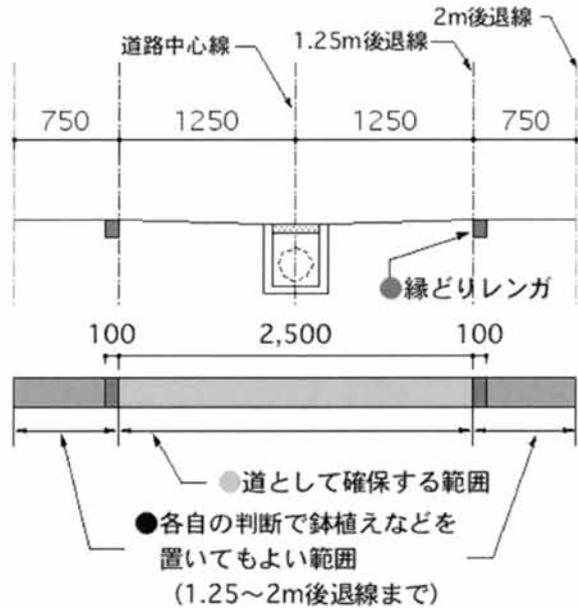
17：30

解散

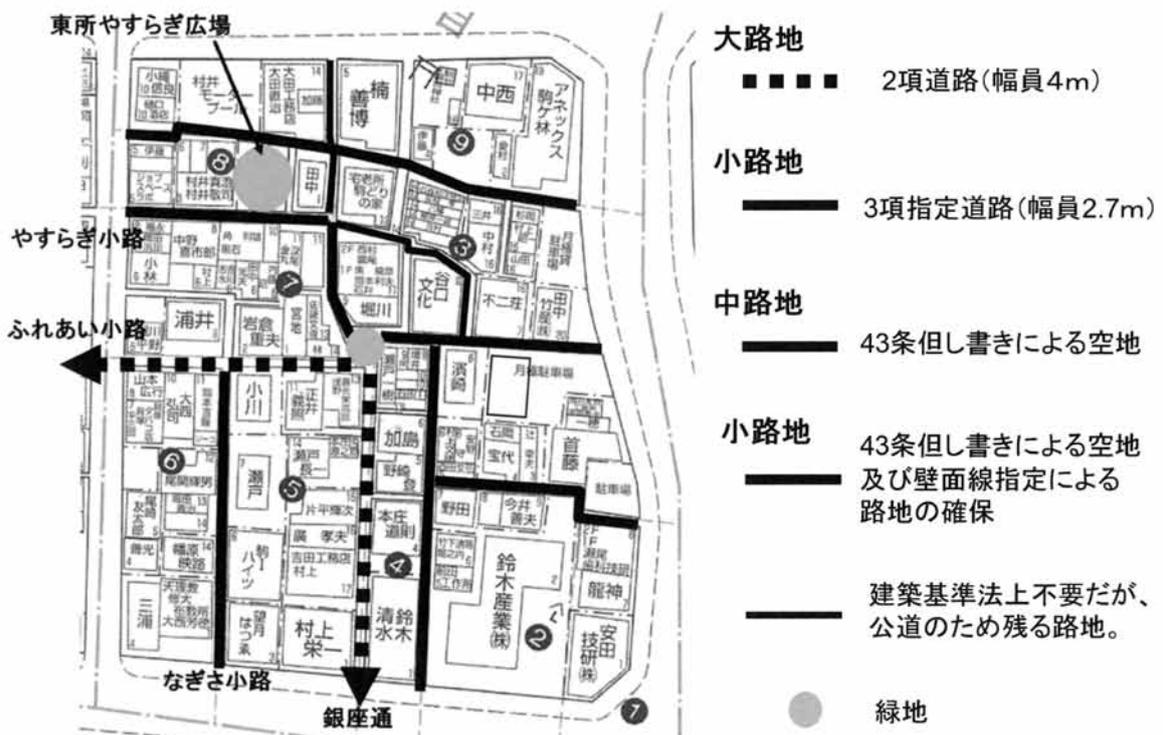
駒ケ林町1丁目での路地を生かしたまちづくり事業

◎路地の整備（細街路整備事業）

・整備が進み、検討過程で望ましい路地のルールが把握



駒ケ林町1丁目近隣住環境計画(原案)



●いきいき下町推進協議会参画事業●

第4回こうべまちづくり学校専修講座

運営委員 成瀬秀一

協働のまちづくり実現のための手法

実施日時：平成24年12月15日（土）

13：30～16：30（受付13：00）

集合場所：こうべまちづくり会館3階 多目的室

内容：まちづくりの歩みを振り返り、第1回から第3回の現場で学んだ事例をふまえて、これからの地域の総合的な運営を担うまちづくりを支えるしくみについて、グループ討議を通じて受講者が自ら考え、意見を交換して、相互に理解を深める。

13：35～14：05

講義1：まちづくりの歩み 三輪康一氏



1975年から2010年まで時系列に沿ってまちづくりを分野別にした年表により解説
まちづくり（空間づくり）を支えるしくみ
まちづくりを把握しやすいように4つに分けて紹介する

- 始動期—個別のテーマで断片的に活動していた（まちなみ保全、歴史的建物の保存運動、コミュニティの研究）
- 発展期—制度のしくみが整う（協議会が立ち上がる、参加手法のワークショップが開発、行政が支援）
- 復興まちづくり期—まちづくりの問題点が震災により明らかになる（再開発、区画整理、ハー

ド系の防災・公園・道路とソフト系の福祉、ボランティア、コミュニケーション、NPO）

- 転換期—問題点への対応、自律と連携、参画と協働（自主的に運営、しくみづくり、地区協定、公園・集会所・水路の維持管理、公共サービスへの参加）
 - ①まちづくり助成制度：費用の一部を助成
 - ②まちづくり専門家派遣制度：技術的支援
アドバイザー派遣（まちづくり協議会 立ち上げ時等に派遣）

14：05～14：25

講義2：第1回から第3回で学んだこと 上山卓氏

第1回 平成24年9月8日（土）

13：30～17：30 野田北

継続するまちづくり（組織と連携）

- 1部 震災復興編（1995年震災～ハード）
- 2部 日常編（震災2003年美しいまち宣言～ソフト）
- 3部 総括編（会場内全員での意見交換、質疑応答）

現地実習（見学）

- TCC鷹取コミュニティセンター～海運双子池公園～野田北部集会所～エヴァタウン海運～大園公園～旧野田北部集会所～カサベラ鷹取～イムマヌエル教会～UD看板～きんぼうじゅ通り～サルビア通り～駅前駐輪場



第2回 平成24年10月27日(土)

13:30~17:30 新在家

総合的・多角的なまちづくりに学ぶ

- 1部 新在家まちづくり委員会の取り組み
- 2部 近年の活動(防災・減災まちづくり)
- 3部 近年の活動(環境部会の取り組み)

現地実習(見学)

- ・だんじり～新在家運河～妙善寺薬医門～妙善寺鐘楼～妙善寺の桜～サザンモール～酒蔵の道～旧西国街道～大石住吉神社～若宮八幡宮

第3回 平成24年11月17日(土)

13:30~17:30 駒ヶ林

- ・住民主体のまちづくりの進め方ーものづくりの取り組み

路地を生かしたまちづくりをめざす長田区の「駒ヶ林地区」を訪れ、地域の方の話と現地の見学を通じて、細街路整備などの密集市街地の課題の取り組みについて学んだ。

- 1部 駒ヶ林まちづくり協議会の取り組み
- 2部 密集市街地でのものづくり

現地研修(まちあるき)

- ・荒天のため、パワーポイントによる模擬まち歩きを実施

松原永季(コンサルタント)

「駒ヶ林地区」まちづくりの見どころ

- ・歴史と文化ー駒ヶ林神社～腕塚堂～屋台小屋～胴塚
- ・暮らしと生業ー魚市場～戎神社～長田港～長屋のまち～古民家改修
- ・防災・減災ーひがっしょやすらぎ広場～路地の整備事例

14:30~15:30

グループ討議:まちづくりを支えるしくみを考える

まちの組織

- ・ふれあいのまちづくり協議会ー小学校単位で地域の福祉センターを拠点として、自治会、婦人会、老人クラブ、子供会等が地域の福祉活動、



交流活動を行なう(保険福祉局、日常)

- ・**防災福祉コミュニティ**ー小学校単位で自治会、婦人会、老人クラブ、子供会、消防団、事業所等が自主防災組織として消火活動、救助活動を行なう(消防、非常)
- ・**まちづくり協議会**ー地域レベルでの住民、自治会、町内会、事業者、関係権利者等が自分たちのまちの将来について考え行政に提案する(市・区、未来)
- ・**自治会**ー地域の住民が身近な課題を自主的に解決し、自立する任意団体(市・区、日常)

- ・アイスブレイク:緊張をほぐす為の自己紹介および、自身の活動報告
- ・班単位での話し合い(検討課題の参考例)
 - ①まちづくりを継続するには
 - ②まちづくりの多様なテーマにどう対応しているか
 - ③ものづくり・ルールづくりに大切なものは

15:40~16:20 発表と全体検討

1班 ファシリテーター:森崎輝行氏

- ・継続についてー問題意識を持ち続け改善し住民に利益還元する
 - ルールづくりに必要な事ー変化への対応
- ・継続についてーまちの問題に気づきその解決に向けてあきらめない活動を
 - ルールづくりに必要な事ーコミュニケーション仲良く・住民間の共通認識手法・ワールドカフェ等
- ・継続についてーまちづくりの持続には人づくりが大切 人の意見を聞き、自分の意見を聞いて

もらう。

ルールづくりに必要な事—専門家との連携

- 継続について—地域の組織がわかりにくいので組織を改組する

ルールづくりに必要な事—組織や役員をしっかりとしておく

2班 ファシリテーター：吉田文男氏・高松範明氏

- 参加するためのしかけづくり—参加する人が喜び楽しむことが大事まちなかを探検したり、外部の人も活用し、アイデアを頂く
- リターン・リピート—若い人が地域から外部へ流出し自治組織が高齢化し維持できなくなる。職住近接・祭り・外部からのアイデアで、戻るしくみをつくる。



- 分担して活動の持続—役割を分担させて負担を軽くし長く継続させる。いろいろな人に参加して頂き、受け入れられる体制のしかけづくり
- 核づくりふるさとづくり—若い人が戻るようなしくみをつくる。

地域の価値を見つけ出す。まつり等で盛り上げて、地元の人・若い人に参加してもらう。地域で若い人を守り立てて、地域の核になってもらう。

まとめ

- 複数組織の弊害—まちはパーツに分けられない、人々の暮らしはテーマごとに営まれていない。テーマによっては組織が重複する、役員が重複する（継続するには負担の軽減）、誰のためのまちづくりか？組織の改変、組織の一本化（日常と非日常、現在と未来に分類し、再構築）現時点での対応としては、組織がゆるやかに連

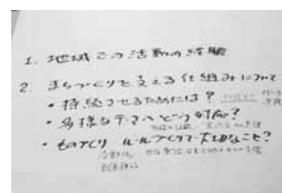
携する。各組織の代表者が集まり意思決定機関を設ける。会社として考えてみる。

- 継続の為—世の為、人の為、自分の為、自らが楽しむ、活動の中に生きがいを見つける。周りを巻き込んで、人と人のつながりをつくる。
- 行政から—継続の為—人材育成、感性を磨き、問題点の抽出、後生に伝える

再構築の問題点—設立経緯が違う、目的が違う

今回のいきいき下町推進協議会の4回の事業は「まちづくりの担い手を育成する」という事で、行政（神戸市）と、建築設計四団体（建築士会・事務所協会・JIA・設計監理協会）で行われた。神戸市ではそれ以外にも問題点がある。神戸市はマンション化率が全国で4位である。4人に一人がマンション暮らしという事になっていて、「2つの古い」（建物の経年劣化・高齢のため役員のなり手がない）というマンション問題を抱えている。

12月1日、私学会館にて国土交通省の後援を頂き、マンションの管理組合への助言を求めるため、近畿地方整備局より、現状と取り組みについての講演をいただいた。その中で管理組合の勉強不足が取り上げられた。今回の内容と似たところに、組織の継続と役員のなり手の問題があり、管理組合にも適用される。いきいき下町協議会も近畿地方整備局と連携を取り、マンション問題に取り組む必要がある。



同好会だより

●KJ会 (ゴルフ同好会) 【会長：為金清人 幹事：水野政博、八木啓祐】

ゴルフ同好会は、雨にも負けず風にも負けず、楽しくコンペを行っています。ゴルフを始められた方、久しぶりにプレーしたい方、新しく入会された方々も、ご連絡をお待ちしております。

第171回より新世話人により運営をおこなっています。引継ぎ宜しくお願ひします。

第181回は9月27日やしろ東条で予定でしたが、参加者少数のため中止となっています。

◆第180回 H24.6.7 (東条の森CC)

..... (参加者10名)

優勝	2位	3位
前田 信行	走出 雄三	八木 啓祐



●麻雀同好会 【幹事：前田進一】

麻雀同好会は娯楽を目的に楽しく開催されており、久しぶりに麻雀される方が多数ですので麻雀の初心者などもご遠慮なく参加してください。

◆第39回 H24.7.7開催.....参加人数8名

優勝	準優勝
榎井 弘	角村 和良

◆第40回 H24.10.27開催.....参加人数12名

優勝	準優勝
榎井 弘	植松 實



平成24年度建築士事務所キャンペーンを終えて

日時：平成24年12月2日（日） 10：00～12：00

場所：六甲本通商店街の一画（神戸市灘区森後町）

建築士事務所キャンペーン実行委員長 川崎 史



平成24年12月2日（日）、「六甲本通商店街」の一画で建築士事務所キャンペーンを開催いたしました。本来は9月30日に「鉄人広場」でのキャンペーンを例年通り予定していたにもかかわらず、台風17号の影響で中止となり、少し遅れての開催となりました。

まず、開催場所探しからはじめました。屋内で人通りの多いところは？と考えたところショッピングモールかもしくは商店街となり、年末という

こともありショッピングモールでは、使用料が安い場所はすでに予約でいっぱいでした。次に人通りの多い商店街は？と言いますと、各商店街の会長の考え方でほぼYES・NOが決まるようでした。ある商店街などは、「建築士事務所協会」と告げると訳のわからない団体扱いをされてしまい、公的団体のみしか使用できないから、と言われ建築士事務所協会の説明をしてもなかなか理解してもらえずあまりの知名度の低さに、本当にかっかりし



第3回事務所キャンペーン報告

	建築相談内容	相談者
1	外壁・屋根の改修工事に伴い太陽光発電を考えているがどの様にすれば良いのか？	築26年プレハブ、70代男性
2	今度地震が来たら我が家大丈夫か心配！ 我が家でも耐震診断受けられるのか？	S43年築W造、50代男性 S50年築W造、40代男性 S53年築W造、50代男性
3	借家でも耐震診断受けられるのか？	7軒長屋、60代女性家主
4	住んでいる地域で「液状化の恐れが有る」と言われている。どの様な対策をとれば良いのか？	S45年築W造、50代男性
5	耐震診断はどの様にして行うのか？壁を剥がすのか？	S53年築W造、50代男性 W造、40代女性
6	自宅マンションのリフォームをしたいが、住居面積70㎡程度なら工事費は幾ら程掛かるのか？	築22年マンション、40代女性
7	中古住宅を購入する時に建築相談をしたい。又、建物チェックもしてほしい。どこへ相談に行けば良いのか？	40代男性

てしまいました。しかし、今回の六甲本通商店街は快く承諾いただき、JR六甲道駅への通り道にもなっています。震災復興「六甲再開発エリアのにぎわいまちづくり」の名前通り多くの人にぎわう商店街です。住宅無料相談の方は、午前午後ともに多数来ていただき、その内7割の方が地震の心配をされていました。やはり皆、これからの地震に対しての不安が大きいことがよくわかりました。相談者は、不安はあるけれどもどうすればよいのか？まず無料耐震診断から・・・この制度



を知らない方もまだまだ多くおられることを実感しました。

当日は午前中、少なかった人通りも午後には多くなり、用意していたチラシやティッシュ・オキールファミリーのグッズやシールすべて配布できました。オキールファミリーの博士のキグルミ



の登場に子供たちは大喜びで、女子中・高校生にも人気があり、握手と写真撮影に博士は大忙しの様子でした。今回は、乗物のペーパークラフトの無料配布を試みました。子供たちにはやはり評判がよかったです。またその中の神戸市消防局の「安心カード付の救急車ペーパークラフト」は、是非とも消防局の広報活動にと、一役買っており少しでも協力することができました。ただパネル展示では、スペースの問題も有り、相談者が見学しにくかったようです。これは次回への課題となりました。



これからも事務所協会キャンペーンや、耐震オープンハウスなどを通じて、無料耐震診断制度、家具の固定、補助金や耐震補強工事の説明などを行い、キャンペーン回数や場所を少しでも増やしわれわれ建築士事務所が身近な存在である事のアピールなど、地道な努力が何より大切ではないかと感じました。

最後に、早朝からご協力いただいた会員、並びに関係各位に心より御礼申し上げます。

賛助会
だより

ステンレスの起源

三和シャッター工業(株) 三原 芳之

仕事で毎日のように建具としてのステンレスに係っていながらステンレスの起源について何も知らないことに気づき、ちょっと調べてみました。建築はもちろんのこと私たちの身の回りで無くてはならない金属材料であるステンレス。この錆びない鉄(実際には錆びにくい)の研究のきっかけになったのはダマスカス鋼でした。十字軍の騎士たちがこれを帯びることを誇りにしたと伝えられる類まれな名剣として知られたダマスカス剣は切れ味が鋭く、しかもしなやかで、波紋あるいはダマスクと称される日本刀の鍔に似た渦状の紋様がその象徴とされました。ダマスカス鋼の刃の上に薄絹を落とせば、その重みで真っ二つに切れたといわれるほどよく切れ、また錆びなかったとされています。これは大袈裟にしてもそれ程優れた鋼であったということでしょうか。またインドの“デリーの柱”とよばれる巨大な鉄柱はダマスカス鋼で出来ているとされています。それがつくられたのは紀元3~4世紀頃とされていますが、ダマスカス鋼そのものはもっと古くから作られていました。この“デリーの柱”と呼ばれる鉄柱は高さ15m以上、直径40cm以上の巨大なもので、建てられてから1600年以上も経っているのに今も完全に原型を留めています(なんと、日本では古墳時代です)。“デリーの柱”はクツブ



ダマスカス剣の紋様



デリーの柱

ミナール寺院に建てられており、ほとんど野ざらし状態です。これほど巨大な鉄柱をどのようにして作ったのかということも大きな謎なのですが、「錆びていない」という事実が驚きです。このダマスカス鋼の謎への挑戦が今日のステンレススチールに繋がっていきます。電磁誘導現象や電気分解法を発見した“電気の父”あるいは“19世紀最大の実験科学者”などとたたえられているあのファラデーが若かりし頃、合金研究に情熱を注ぎダマスカス刀剣並みの品質を持った鋼の開発に挑戦していたことはあまり知られていません。ファラデーは硬くて錆びない合金鋼を求めて銀、白金、ロジウム、イリジウム・オスミウム等での合金研究を重ねましたが工業化には至らず、研究のパトロンの死と共に合金鋼に対する情熱を急速に失い、

物理学に転向していったのです。しかしこうしてファラデーから始まった錆びない鋼の研究は世界中に広がり、遂に人類はステンレス鋼を得たのでした。

インドからイギリスへダマスカス鋼が持ち込まれてから約1世紀の時が流れていました。今や、身の回りの日用品は言うに及ばず車両、船舶そして建築材料としてステンレスは大きな役割を担っています。その発明によりステンレスは鉄を主成分としながらも10.5%以上のクロムを添加することで容易に錆びるといった鉄の弱点を克服し、耐食性・耐久性に優れた特性を備えた金属となりました。そして現在、環境問題に対する社会の関心が高まるなか、ステンレスは環境にやさしく、100パーセントリサイクル可能な金属としても評価されています。

[参考文献]

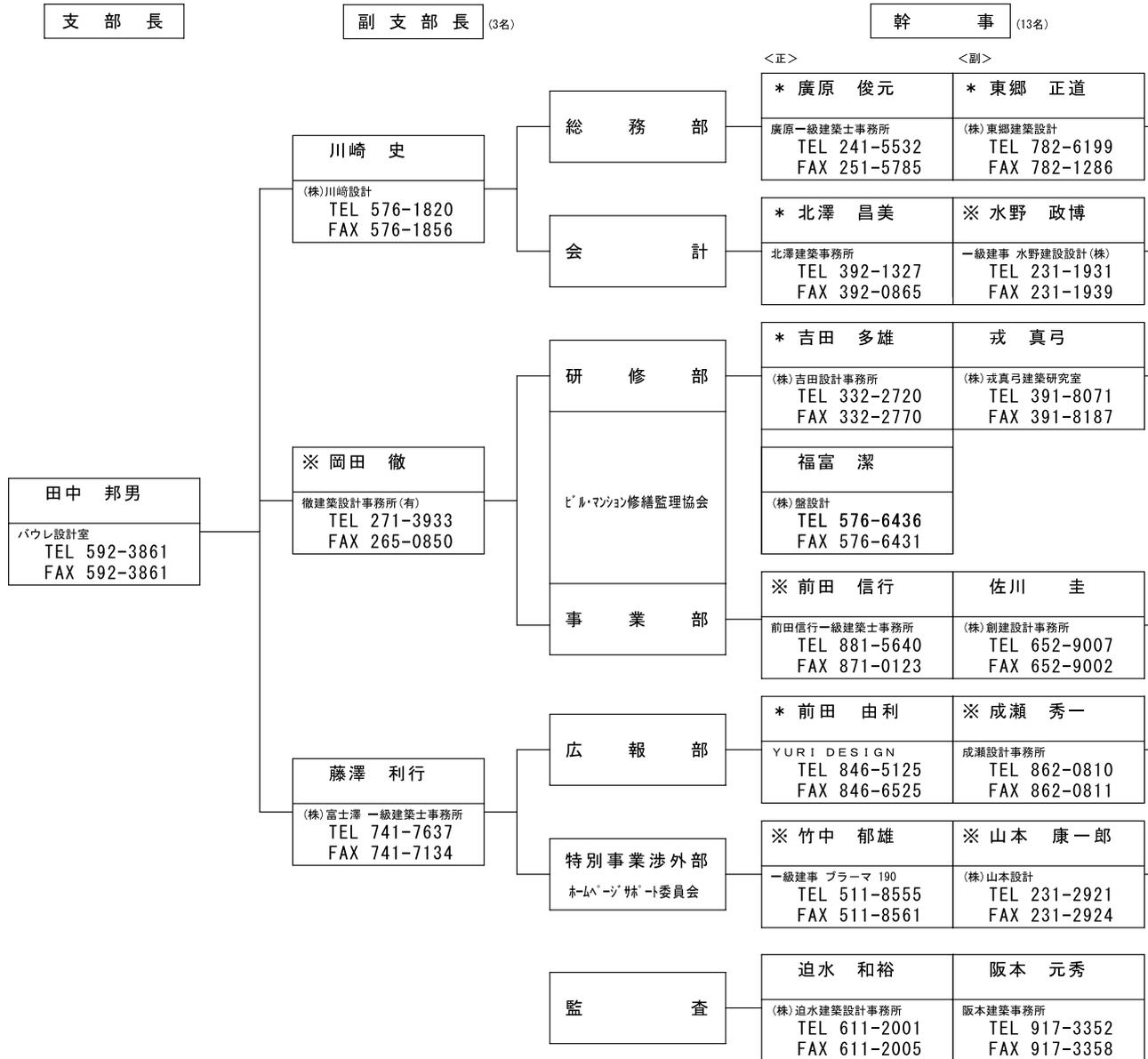
※ステンレス鋼発明史 鈴木隆志著 アグネ技術センター

※鉄の歴史 ルードウィヒ・ベック著 (株)たたら書房



ファラデー

(一社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部 組織図・役員業務分担表



相 談 役 (3名)	
正井 彬博 (株)正井建築設計事務所 TEL 575-8281 FAX 575-8282	北風 雅頌 北風建築設計事務所 TEL 221-6485 FAX 221-6566
高田 昌之 一級建事 朝日共同設計 TEL 221-9781 FAX 221-9782	

本 部 役 員 (7名)	会 長	※ 山本 康一郎 (株)山本設計 TEL 231-2921 FAX 231-2924
	副 会 長	※ 竹中 郁雄 一級建事 プラマ 190 TEL 511-8555 FAX 511-8561

(平成24・25年度)

*印は、新任役員を示す。
※印は、重複役員を示す。

H24. 06. 06

委員 (22名)

藤木 宏互 (株)藤木設計事務所 TEL 576-4351 FAX 577-1921	* 出口 禎 出口禎アトリエ TEL 754-8878 FAX 754-8886	* 大崎 正敏 寄神建設(株)一級建築士事務所 TEL 681-6662 FAX 682-8114	和田 利雄 (有)和田建築事務所 TEL 841-5818 FAX 841-7908
五百旗頭 洋一 I 建築設計事務所 TEL 200-4850 FAX 200-4850			
畑岡 恒久 (有)T&H設計一級建築士事務所 TEL 325-5780 FAX 325-5781	谷口 敏宏 (株)財田建築設計事務所 TEL 821-7443 FAX 821-8337	石田邦夫(藤原一成) (株)黒田建築設計事務所 TEL 574-0678 FAX 574-1838	後藤 周亮 一級建事 都市建築設計 TEL 230-6821 FAX 230-6822
井川 和幸 神領不動産(株)一級建築士事務所 TEL 261-2240 FAX 261-2139			
平川昌勝(富永紘子) 一級建事 創企(株) TEL 261-0202 FAX 261-0788	前田 進一 前田建築設計事務所 TEL 575-5624 FAX 575-5624	赤松 正憲 南747-72建築設計事務所 TEL 843-2448 FAX 841-8550	* 神原 毅司 兵庫六甲農業協同組合一級建事 TEL 981-7896 FAX 981-0997
植松 實 清原建築事務所 TEL 411-3821 FAX 411-3840	* 前田 さえ アトリエ sae TEL 332-7280 FAX 020-4622-4553	* 三宅 正浩 (株)y+M design office TEL 891-7616 FAX 891-7620	有賀 芳子 丸正建設(株)一級建築士事務所 TEL 621-8661 FAX 621-5887
瀬戸本 淳 (株)瀬戸本淳建築研究室 TEL 333-0138 FAX 333-0238	小島 順治 神戸中央設計 TEL 242-5621 FAX 242-8900	* 波多野隆之 (株)ジョインウッド一級建築士事務所 TEL 079-595-1517 FAX 079-595-1518	※ 柏本 保 (株)アーキノヴァ設計工房 TEL 222-3231 FAX 222-9980

各業務担当者表

事業名	担当者名	
ボウリング	幹事	福富 潔
親睦大会	委員	平川 昌勝 (代・富永紘子)
	委員	井川 和幸
KM会	幹事	前田 信行
	委員	前田 進一
KJ会	幹事	前田 信行
	幹事	水野 政博
連絡協議会	幹事	廣原 俊元
	委員	植松 實
	委員	大崎 正敏 三宅 正浩
女性建築士	委員	前田 さえ
交流会	幹事	前田 由利
HP維持管理	幹事	竹中 郁雄
	委員	波多野隆之
わが街サート	幹事	成瀬 秀一
	委員会	
ビル・マンション神戸	委員	柏本保(事務局)
修繕監理協会 (定期報告)	幹事	山本康一郎(会長)
	副支部長	岡田徹(副会長)
業務グループ		
県工耐震実習	幹事	竹中 郁雄
業務	監査	迫水 和裕
一般向け	副支部長	藤澤 利行
マンションセミナー	幹事	成瀬 秀一
	研修部	
公共建築設計	支部長	田中 邦男
特別委員会	幹事	山本康一郎

賛助会 (11社)

代表幹事 (正)関西電力(株) 神戸営業所 玉田 義樹 TEL 220-0008 F 220-0040 ※ 各部正幹事を副幹事とする	総務部幹事 (正)小松カール工業(株) 神戸営業所 高橋 伸幸 TEL 856-8181 F 856-8141 (副)吉野石膏(株) 神戸営業所 水谷 剛久 TEL 302-3062 F 302-3071	事業部幹事 (正)菱電エレベーター施設(株) 神戸営業所 岡本 季雅 TEL 331-7221 F 331-5546 (副)(株)北村鉄工所 北村 憲司 太田慧一 TEL 06-6719-3031 F 06-6719-3043
広報部幹事 (正)大阪ガス(株)兵庫リビング営業部都開チーム 平井 保夫 TEL 360-3586 F 360-3014 (副)三和シヤッター工業(株) 神戸支店 三原 芳之 TEL 871-5557 F 871-5532	研修部幹事 (正)(株)LIXIL 神戸支店 村山 浩 TEL 361-1794 F 361-6940 (副)イスケ化研(株) 藤谷 章 TEL 671-0451 F 671-0474	厚生部幹事 (正)文化シヤッター(株) 神戸支店 谷向 康裕 TEL 371-3853 F 361-7558 (副)(株)神戸清光 高松 典生 TEL 681-5789 F 681-8357

※役員総会 4 4名 + 1 1 社

理事	※ 柏本 保 (株)アーキノヴァ設計工房 TEL 222-3231 FAX 222-9980	※ 成瀬 秀一 成瀬設計事務所 TEL 862-0810 FAX 862-0811	※ 岡田 徹 徹建築設計事務所(有) TEL 271-3933 FAX 265-0850	※ 前田 信行 前田信行一級建築士事務所 TEL 881-5640 FAX 871-0123	※ 水野 政博 一級建事 水野建設設計(株) TEL 231-1931 FAX 231-1939
----	---	--	---	---	---

新入会員紹介

【正会員】

岩城 一則

株式会社 ii-Sumai

〒651-1101

神戸市北区山田町小部字妙賀10-8

TEL078-595-2731 FAX078-595-2733

E-mail : office@ii-sumai.info

安藤 昇

一級建築士事務所 伊丹工房

〒664-0899

伊丹市大鹿2-80

TEL072-785-0264 FAX072-785-0264

E-mail : itamikobo@muj.biglobe.ne.jp

前田 さえ

一級建築士事務所 アトリEsae

〒650-0021

神戸市中央区三宮町3-5-4 HK元町ビル802

TEL078-332-7280 FAX020-4622-4553

E-mail : sae@atelier-sae.com

山本 耕一郎

LARC建築事務所

〒655-0872

神戸市垂水区塩屋町5-16-30

TEL078-752-7849 FAX078-752-7849

鈴木 祐一

一級建築士事務所 大和船舶土地 株式会社

〒651-0088

神戸市中央区小野柄通3-1-15

TEL078-232-3131 FAX078-232-3226

E-mail : blueship@daiwasenpaku.co.jp

中村 利明

株式会社 ナックス建築設計事務所

〒650-0012

神戸市中央区北長狭通6-2-15 カサベラ花隈204

TEL078-599-7940 FAX078-599-7941

三宗 慎吾

株式会社 三宗都市建築研究所

〒655-0048

神戸市垂水区西舞子9丁目13番6号

TEL078-784-2319 FAX078-784-2319

E-mail : mitsu.ua@galaxy.ocn.ne.jp

山岸 捷一

株式会社 山岸建設一級建築士事務所

〒658-0051

神戸市東灘区住吉本町1-5-8

TEL078-842-1822 FAX078-841-5202

E-mail : s.yamagishi@yamagishi-const.co.jp

【賛助会員】

仲島 聰

株式会社 確認サービス

〒460-0008

名古屋市中区栄4丁目3番26号 昭和ビル4階

TEL052-238-7756 FAX052-238-7768

E-mail : mail@kakunin-s.com



作 品 紹 介



敷地北側を流れる能登川は夏にはホタル、秋には紅葉を楽しむことができ、時には鹿も訪れる。そのような自然あふれるオープンスペースを陽のあたる北庭として取り込むことで、自然とのふれあいが可能な空間を提案した。川に向かって下のように配置した階段屋根によって、多くの人が集まってくつろぐことができ、川辺も取り込んだ憩いの場所をつくり出す。階段屋根は室内においては縁側の庇となり多くの開口部を確保し、北側オープンスペースに反射する安定した明るさを得ることができる。加えて、組格子耐震壁により可能となる東西南側上部のガラス欄間から入り込む光が北側の組格子天井に反射することで、室内に明るさと光と影の動きによる時の移ろいを演出する。さらに、組格子屋根により、視界を遮る耐震壁を最小限にすることで、視線が各部屋から縁側、北庭、能登川へと抜け、回遊性をもたせた平面構成が可能となり、限られたスペースに開放感を与えた。人がどこに座っても開放感が得られる構成にすることにより、階段屋根とあわせて多くの人を招き入れることのできる家となっている。



設計監理／株式会社+M design office

物件名／北庭の家

施工／有限会社ブラザーズアウル

建築場所／奈良県奈良市白毫寺町

工期／平成22年5月～平成22年10月

構造規模／木造軸組構法二階建て

建築面積／64.05㎡

延床面積／92.41㎡

作品介绍



近所の子供達が「ガンダムの家」と呼んでいました。
高級スポーツカーのコレクションと、ゲストとパーティーを楽しむためのセカンドハウスです。
1階は、見たこともないスーパーカーが4台、まるでおとぎの国のショールームのように並んでいます。
2階はLDKと大きな和室などがあります。3階はバーカウンターもある天井の高いコンサートホールです。



設計監理 / 株式会社瀬戸本淳建築研究室
物件名 / **ガンダムの家**
施工 / 今津建設株式会社
建築場所 / 芦屋市東山町
工期 / 平成22年9月～平成23年12月
構造規模 / RC造 地下1階、地上2階建
建築面積 / 147.37㎡
延床面積 / 409.96㎡

●●● 「作品紹介」の募集と展示のご案内について ●●●

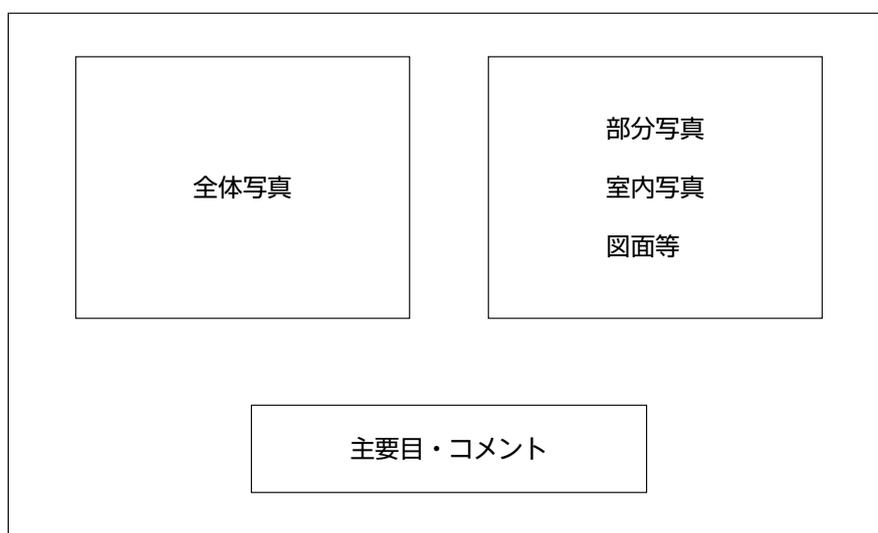
標記について、「作品紹介」を下記の展示・掲載のために、会員の皆様から募集しますので、応募要領により奮ってご応募下さい。

I 「作品紹介」募集について

1. 応募作品の内容

建築物を対象とし、下記の要領で纏めた作品とします。

写真と主要目・コメントを下図(例)のようにA3サイズにレイアウトして、下記の宛先までご送付下さい。



①写真配置は例示したもので複数枚でも可です。

②机上自立展示又は壁に吊り掛け展示になりますので、当方で用意するA3透明硬質ビニール製カードケースに入れて展示しますので、挿入出来るものとします。(カラーコピーで可)

主要目・コメント欄には下記事項を記載して下さい。

- ①物件名 ②設計監理 ③施工 ④建築場所(区町まで) ⑤工期 ⑥構造規模 ⑦建築面積 ⑧延べ面積
⑨内容・コンセプト

* 応募作品は返却しません。

2. 応募作品提出先

連絡先：〒657-0842 神戸市灘区船寺通4丁目5-21 成瀬設計事務所 宛(郵送又は宅配便)

TEL 078-862-0810・FAX 078-862-0811/Email:naruse2@gmail.com

出来るだけ展示・紹介したいので、その他にご推薦出来る展示場所がありましたらご連絡下さい。

一級建築士事務所 アトリエsae



元町事務所 〒650-0021 神戸市中央区三宮町3-5-4 HK元町ビル802
 TEL/FAX 078-332-7280 図面FAX 020-4622-4553
 e-mail: info@atelier-sae.com URL: http://atelier-sae.com

代表 前田さえ (sae MAEDA)



新築住宅、リフォーム、
 店舗設計、建築設計全般

建築設計デザイン事務所・大手ハウスメーカーで実務を重ねた後に渡仏、西洋の長い歴史や伝統の重厚さと、現代的でドライな合理性という相反するものが見事に共存するヨーロッパでの生活を直接肌で感じました。また、ヨーロッパ文化の中心であるパリの設計事務所で経験を積み、生活に根付いた西洋建築について学びました。

一方、このパリでの生活は、外から見た日本建築の良さを再認識することになりました。つまり、日本の風土、気候そして厳しい自然と対峙しない、しなやかさを日本建築は備えているのです。

私は、そういった私たち日本人のライフスタイルに適した建築に、自身が学んだ西洋建築の良さを取り入れた新たなライフプランを、建築設計を通して提案したいと考えています。

プロフィール/ Profile

大阪教育大学共同研究員

神戸大学非常勤講師員

兵庫県建築士事務所協会

兵庫県弁護士会紛争解決専門委員

欠陥住宅神戸ネット相談員

ドリカムパートナー登録建築家

アーキテクト・スタジオ・ジャパン (ASJ) 登録建築家

職歴：

大学建築系研究室勤務

建築設計デザイン事務所

大和ハウス

海外経験：建築設計事務所（フランス・パリ）



元町事務所



前田さえ オリジナルキッチン・洗面化粧台

天板、収納棚、扉、ハンドルやシンク、水洗金具に至る、細部にまでこだわった自分好みのオリジナルキッチンが出来上がります。もちろん10mm毎のサイズオーダーも可能です。一人一人のお客様に合ったキッチン・洗面化粧台を作成致します。

また、キッチンの天板にはEngineedstoneという天然石を砕き再加工した天然クォーツ93%の人工素材を使用致します。人造大理石より強く、新しい部材として最近注目されており、キッチンの天板としてお使いいただくケースが増えてきています。



アトリエsae その他活動事例

1. アトリエsae秋季セミナー

アトリエsaeでは、一般の方々に広く建築のこと、インテリアのこと、デザインのことなどを知っていただくため、設計業務以外にも定期的にセミナーを開催しています。内容は専門的な事ではなく、一般の方にもすぐ理解していただけるような、分かりやすい内容になっています。特に女性の視点にたったセミナー内容を心がけています。

右の写真は先日開催されたセミナーの様子です。講義内容は『床暖房』という、一般の方々にとって、構造的でとっつきにくいテーマでしたが、ショールーム内でのセミナー開催ということもあり、講義だけでなく、実際に床暖房の暖かさを体感していただけたので、床暖房の構造について、少し身近に感じていただけたのではないかと思います。



2. 神戸大学講演会

キャリア教育の講師として神戸大学に招かれ、学生を対象とした講演会を行いました。「女性建築家としての生き方」というテーマで学生達と和やかな時間を持ちました。

今後もさまざまな事業に積極的に取り組んでいきます。



私の街づくり

大和船舶土地株式会社 鈴木 祐一

2012年も、もはや過半が過ぎつつあります。

私たちの社会状況も、自然災害や世界的な景気動向等々日々大きく変化をしています。当然のことながら建築を取り巻く状況も非常に厳しく、高度経済成長期に建物の量を競った頃を懐かしく思います。

そこで、単体としての建築を美しく創るだけではなく、既存の街の中で小さな規模でも複数の建物を、地域の特性を把握したうえで体系的に創りつづける、あるいは、古い建物を改修し続ける過程で新しい街の魅力が創られると考えました。

具体的には、私が「街づくり」をしている地域において神戸芸術工科大学の川北研究室に地域特性調査（地形・歴史・社会統計・空間形態・現地観察）

を依頼し、その研究結果を参照しながら市内数地区において、中小規模の施設をつくり続けています。

三ノ宮地区の「Y' s house 三ノ宮Ⅱ」（賃貸用集合住宅）板宿地区の「Y' s house RD-01」（賃貸用戸建住宅）の2棟が2009年度の「Y' s house 神撫町Ⅵ」につづいて公益財団法人日本デザイン振興会主催の2012年度グッドデザイン賞（住まいのデザイン2部門）を受賞しました。

複数の建物で受賞させて頂いたことで自信を持って、今後も大手ディベロッパーのできない“すき間”を狙い、個性的な住まい、仕事場等を求める若い世代に支持されるレベルの高い街づくりをすすめたいと思います。

 **GOOD DESIGN
AWARD 2012**



物件名称	Y' s house 三ノ宮Ⅱ	物件名称	Y' s house RD-01
所在地	神戸市中央区小野柄通	所在地	神戸市須磨区禅昌寺町
構造・規模	鉄骨造 地上5階造	構造・規模	木造 地上2階造
敷地面積・延床面積	80.90㎡・208.13㎡	敷地面積・延床面積	115㎡・100㎡
事業主・プロデューサー	大和船舶土地株式会社	事業主・プロデューサー	大和船舶土地株式会社
事業主 URL	http://www.daiwasenpaku.co.jp		
設計	有限会社 ランドサット	設計	有限会社 ランドサット
設計者 URL	http://www.landsat.jp/		
竣工	平成24年1月	竣工	平成23年8月

魅

せる



MADRIC・AD-1

それは、お客様にとってNo.1のCADであることを期待して
それは、お客様がonly oneの仕事ができることを祈って
それは、お客様が地域No.1で活躍できることを願って
誕生しました。



MADRIC

エーディーワン

AD1

ONE

建築3次元CAD

環境を設計できる (エコ) やさしいCAD

お問い合わせ

06-6946-5311

株式会社シーピーユー 大阪支店

〒540-0026 大阪市中央区 内本町1-2-6 内本町松林ビル9F

燃料電池「エネファーム」による 分散型発電が増えています!

ENE・FARM 燃料電池で電気とお湯をつくる



発売3年3ヶ月(平成24年8月現在)で

累計販売台数

10,000台を突破!

SOLAR 太陽光発電 太陽光で自宅の電気をつくる



エネファームを
選んだ方の
約4割が
太陽光発電を
設置しています!!

その理由は?

ダブル発電

エネファームと太陽光発電を組み合わせたダブル発電なら購入電力量を大幅にダウン!

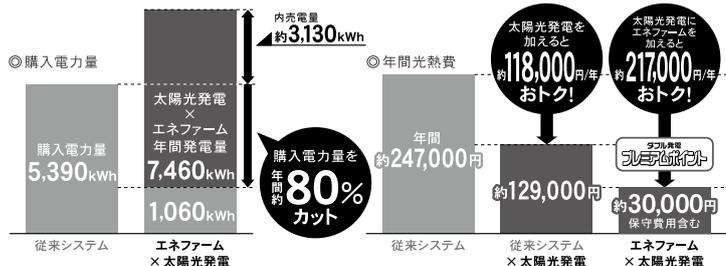
ENE・FARM × SOLAR

拡がっています。ダブル発電の輪! (エネファーム×太陽光発電)

	エリア	家族数	太陽光	光熱費(支出)	売電収入	年間光熱費
A邸	大阪府狭山市	5人	3.46kW	¥148,849	¥149,088	¥-239
B邸	和歌山市	2人	3kW	¥125,227	¥137,616	¥-12,389
C邸	大阪府三島郡	6人	3.78kW	¥172,846	¥146,448	¥26,398
D邸	奈良県大和郡山市	5人	3.25kW	¥156,008	¥160,422	¥-4,414
E邸	大阪府豊中市	4人	4.3kW	¥181,690	¥183,120	¥-1,430
F邸	京都府京田辺市	3人	3.1kW	¥122,584	¥160,272	¥-37,688

光熱費(支出):電気代+ガス代 売電収入:売電金額+プレミアムポイント
※光熱費合計のマイナスの金額は収入となります。

【エネファーム】太陽光発電/ダブル発電/エネファーム×太陽光発電 試算条件:戸建住宅4人家族での想定 ●「従来システム」の使用機器:ガスふろ給湯器、ガスファンヒーター(リビングダイニング)、ガスコンロ、リビングダイニング以外の暖房および冷房は電気エアコンを使用 ●「エネファーム」の使用機器:家庭用燃料電池コージェネレーションシステム、ガス温水床暖房(リビングダイニング)、ミストサウナ機能付きガス温水浴室暖房乾燥機、ガスコンロ、リビングダイニング以外の暖房および冷房は電気エアコンを使用。計算は条件により異なります。 ●「太陽光発電」の使用機器:太陽光発電3.6kW、ガス風呂給湯器、ガス温水床暖房(リビングダイニング)、ミストサウナ機能付きガス温水浴室暖房乾燥機、ガスコンロ、リビングダイニング以外の暖房および冷房は電気エアコンを使用。計算は条件により異なります。 ●「エネファーム×太陽光発電」の使用機器:太陽光発電3.6kW、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム、ガス温水床暖房(リビングダイニング)、ミストサウナ機能付きガス温水浴室暖房乾燥機、ガスコンロ、リビングダイニング以外の暖房および冷房は電気エアコンを使用。計算は条件により異なります。



お問い合わせは

グッドライフ
コールセンター
020-000-555

受付時間

平日8:00~20:00
日祝9:00~17:30

大阪ガス家庭用ガス機器総合情報サイト

http://home.osakagas.co.jp/search_buy/index.html

Design Your Energy 夢ある明日を

大阪ガス

New CITY FRONT

小開口部向け
規格フロント

三和グループのステンレス建具シリーズ



ニューシティフロント

低価格
短納期
高品質

従来のステンレスフロントに比べ **20%オフ** (当社比)
部材の規格化・集約化により **納期2週間** に対応！
ISO9001認証工場で作成、高品質・高意匠を実現。



規格品ならではの低コスト・短納期

ご要望にお応えできる**92**タイプ

高品質・ISO9001認証工場で作成

■アプローチ43号投稿のお願い

本誌面を通じ会員の交流や意見、研究等の発表の場として活用して戴きたく、会員・賛助会様には、内容については自由ですのでたくさんのご投稿をお待ちしております。

投稿先

〒658-0047 神戸市東灘区御影3-8-4

一級建築士事務所 YURI DESIGN 前田由利

TEL.078-846-5125/FAX078-846-6525

E-mail : info@yuri-d.com

編集後記

やっと全部入稿しました。寄稿いただいた皆様と、藤澤副支部長、成瀬理事をはじめ、原稿を書いていただいた有賀さん、対談をまとめたいただいた三宅さん他優秀な広報スタッフ全員の多大なる協力のおかげで完成することができました。心から感謝いたします。このアプローチの作成を通じて、神戸支部は1年を通していろいろな活動をしているのだと、改めて感じました。皆さんに追いつけるように頑張りたいと思います。今後とも広報部に暖かいご支援をよろしくお願いいたします。 前田由利

■編集 一般社団法人兵庫県建築士事務所協会 神戸支部
広報部 担当副支部長 藤澤 利行
広 報 部 長 前田 由利
担 当 理 事 成瀬 秀一
ス タ ッ フ 植松 實
前田 さえ
三宅 正浩
有賀 芳子
賛助会 大阪ガス(株) 平井 保夫
三和シャッター工業(株) 三原 芳之

■発行 一般社団法人兵庫県建築士事務所協会 神戸支部
神戸市北区鈴蘭台南町5-5-25-103
〒651-1113
パウレ設計室内
TEL 078-592-3861
FAX 078-592-3861

■編集 集 デジタルグラフィック株式会社
神戸市中央区弁天町1番1号
TEL 078-371-7000
FAX 078-371-7001

